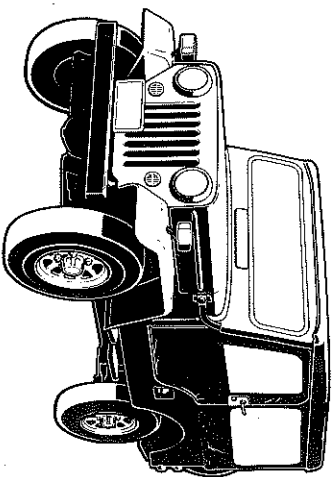


ご使用前に必ずお読みください。



MITSUBISHI

Jeep[®]

ジープ

取扱説明書

MMC 三菱自動車

ジープをお買い上げくださいますて

ありがとうございます

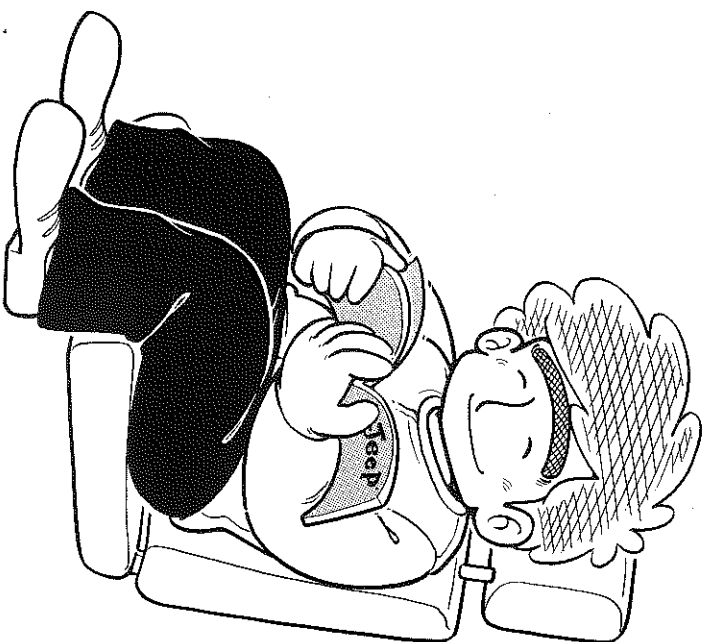
この取扱説明書は、あなたの車をいつも安全に楽しく運転していただくために正しい取り扱いと簡単な手入れについて説明してあります。

万一、お車の取り扱いを誤りますと故障や事故の原因となりますので、ご使用の前に必ずお読みください。

装備仕様の変更などにより本書の内容があなたの車と合わないことがありますので、あらかじめご了承ください。

ご不明な点は、お買い上げの販売会社の担当営業マンにおたずねください。別冊「整備手帳」には、定期点検ならびに弊社指定の新車時点検などが記載しておりますので、必ずお読みください。

定期点検や車両故障などのときは、三菱販売会社で点検、整備をお受けください。
い。 (発行…平成3年3月)



66J016

三菱自動車では、お客様との“ふれ合いの窓口”として、三菱販売会社にお客さま相談窓口を設けております。ご不審な点、お気付きの点、また整備内容について詳しくお知らせになりたいことがありましたら何なりと、ご相談ください。

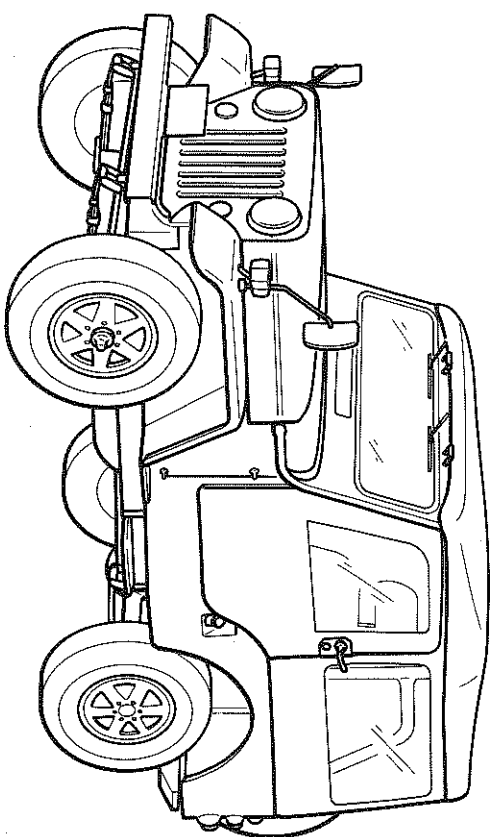
三菱自動車整備保証制度について

自家用自動車を対象に定期点検整備(含む車検)を実施した箇所、その整備作業が原因で生じた不具合については、サービス工場の発行する整備保証書に基づき、当該整備完了後6ヵ月又は10,000kmのいずれか早い時点までは、実施工場で再整備を保証する制度です。詳細は三菱販売会社でお聞きください。

MODEL

この取扱説明書は次の車について説明してあります。

S-J53 (2700 ディーゼル ターボ エンジン, フロア シフト車)



装備区分

メーカー オプション... お客様のご注文により、特定の車種に工場装着される装備品を示します。

(詳しくは営業マンにおたずねください。)

66J010

CONTENTS (目次)

主な取り扱い要領	ページ	車体各部の開閉と室内装備の使い方	ページ	エンジンのかけ方と運転装置の使い方	ページ
・スイッチの配置・使い方.....	4	・キーの種類.....	25	・エンジン スイッチの使い方.....	37
・メータ・警告灯・表示灯の位置.....	5	・ドアの施錠・開閉.....	25	・エンジンのかけ方.....	38
・シートの調整のしかた.....	6	・リヤ ゲートの開閉.....	26	・暖機運転のしかた.....	39
・ヒータ及びベンチレーション(換気)の使い方.....	7	・ドア カーテン ウィンドウの開閉.....	26	・P.T.O(作業機)の使い方.....	39
トラクターの心得		・エンジン フードの開閉.....	27	・エンジンがかかりにくいときの処置.....	40
・点検、整備について.....	8	・燃料の補給.....	27	・エンジンの止め方.....	40
・安全のために.....	10	・幌の取り扱い.....	27	・シフト レバーの操作.....	41
・エンジンの始動、停止について.....	11	・ウィンドシールドの折りたたみ方.....	29	・フリー ホイール ハブの操作.....	43
・走行するときは.....	12	・セフター ベルトの使い方.....	29	・駐車ブレーキの操作.....	43
・駐車について.....	13	・シートの調整.....	29		
・故障を防ぐために.....	13	・シート ベルトの使い方.....	30		
・装備品、オプション部品の取り扱い.....	14	・クローブ ボックスの開閉.....	31		
・もしものときの処置.....	14	・サンバイザ(日よけ)の使い方.....	31		
・燃料節約の“ひけつ”.....	17	・シガレット ライタの使い方.....	32		
・純正部品について.....	17	・灰皿の使い方.....	32		
		・保安炎筒の使い方.....	32		
メータとスイッチの見方・使い方		ラジオと空調システムの使い方			
・メータとスイッチの配置.....	19	・ラジオの使い方.....	33		
・メータの見方.....	21	・ヒータ及びベンチレーション(換気)の使い方.....	34		
・警告灯と表示灯の見方.....	22				
・スイッチの使い方.....	23				



主な取り扱い要領

4



ドライバーの心得

8



メータとスイッチの見方・使い方

15



車体各部の開閉と
室内装備の使い方

25



ラジオと空調システムの使い方

33



エンジンのかけ方と
運転装置の使い方

37



タイヤの取り扱いと車のお手入れ

45



4WD(4輪駆動)運転の心得

55

整備基準値

給油脂一覧表

59

エンジンルーム内の名称

62

ヒュース ボックス

62

INDEX(索引)

63

C56003

タイヤの取り扱いと車のお手入れ

ページ

ページ

・搭載工具	45	整備基準値	59
・ジャッキ アップのしかた	46	給油脂一覧表	60
・タイヤのローテーション	47	エンジンルーム内の名称	62
・スベア タイヤの取り扱い	48	ヒュース ボックス	62
・タイヤ交換のしかた	48	INDEX(索引)	63
・タイヤとホイールのサイズ	50		
・タイヤ チェーンのかけ方	50		
・車のお手入れ	52		
・寒冷時の保守	53		

4WD(4輪駆動)運転の心得

・4輪駆動の上手な使い方	55
積雪路や凍結路を運転するときは /	55
砂地やぬかるみを運転するときは /	56
急な坂を登るときは /	56
急な坂を降りるときは /	56
急なカーブを回るときは /	57
渡河するときは /	57
オフロード走行後の点検及び処置	57

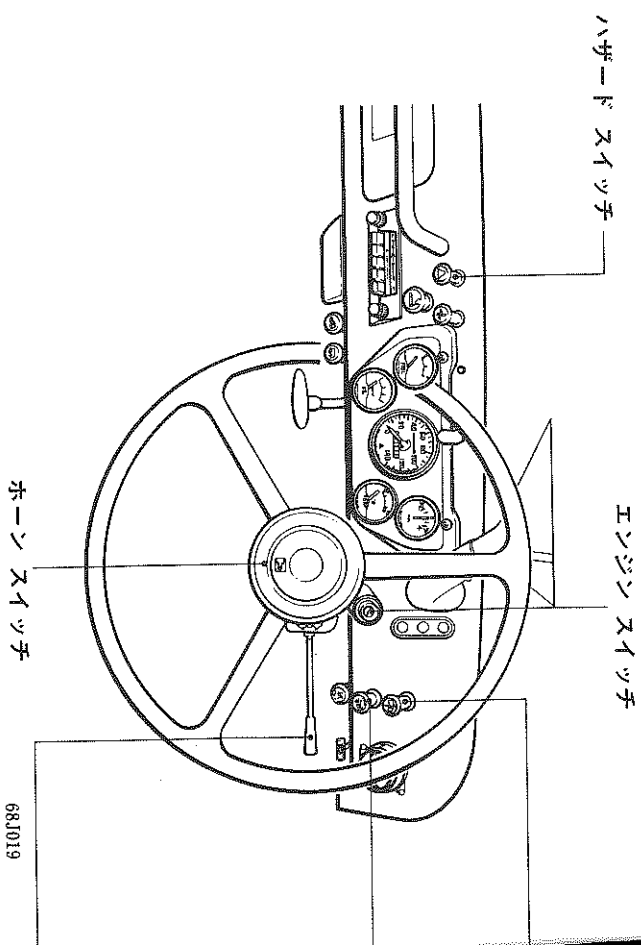
ご使用前に必ずお読みください。

主な取り扱い要領

	ページ
・スイッチの配置・使い方.....	4
・メータ・警告灯・表示灯の位置.....	5
・シートの調整のしかた.....	6
・ヒータ及びベンチレーション(換気)の使い方.....	7

この車の主な取り扱い要領を抜粋して記載してあります。
詳細については8ページ以降をお読みください。

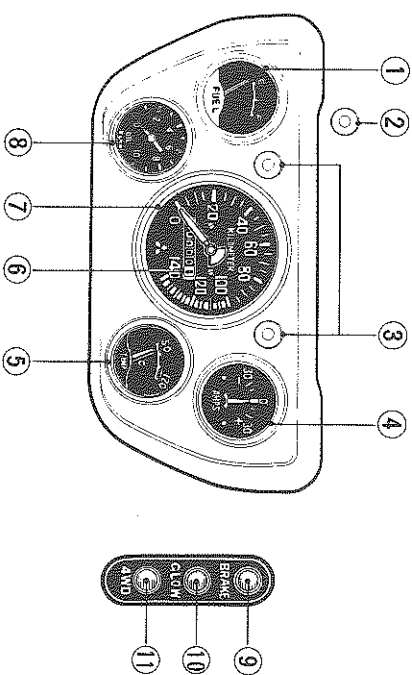
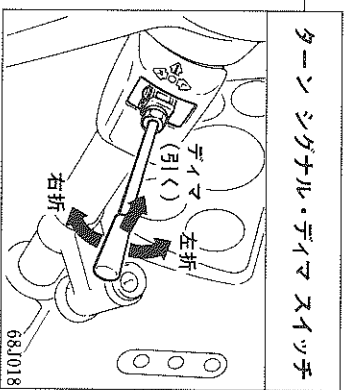
スイッチの配置・使い方



メータ・警告灯・表示灯の位置

ワイパースイッチ	ウォッシュスイッチ
 OFF INT LOW HI (間欠) (低速) (高速) J56026	 J56026

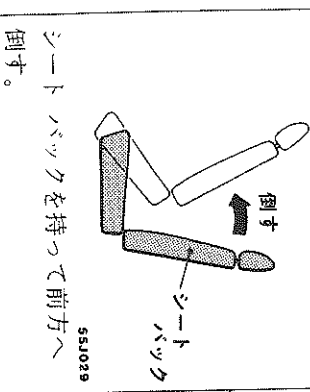
ライティングスイッチ	パーキングスイッチ
 1段 2段 J56022 1段: ヘッドランプを除くランプが点灯 2段: ヘッドランプなど全てのランプが点灯	 J56022



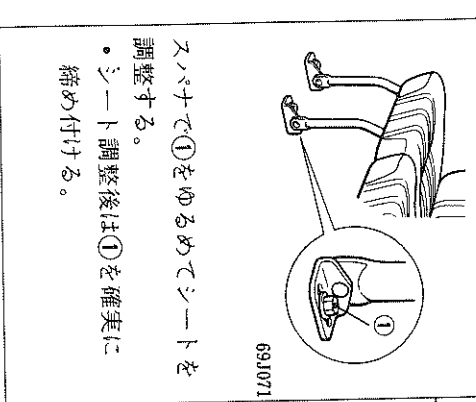
- ① 燃料計
- ② アツバ ビーム表示灯
- ③ ターンシグナル(方向指示)表示灯
- ④ 電流計
- ⑤ 水温計
- ⑥ 積算距離計
- ⑦ スピードメータ
- ⑧ 油圧計
- ⑨ ブレーキ警告灯
- ⑩ クローラズ熱表示灯
- ⑪ 4輪駆動動作表示灯

シートの調整のしかた

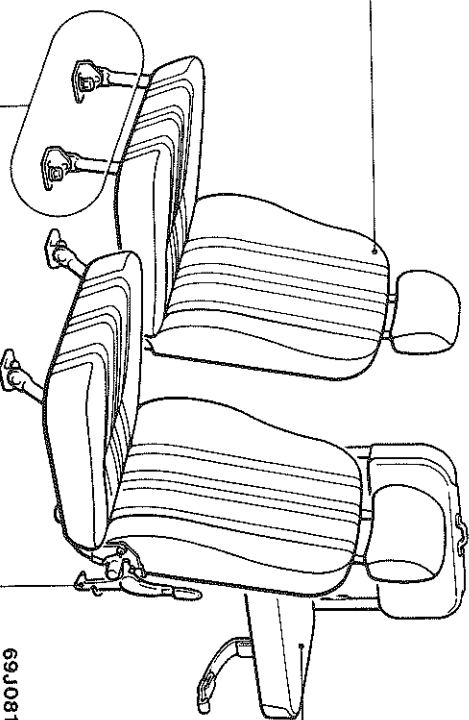
リヤシートへ乗り降りするとき
又は工具類を出し入れするとき
(運転席)



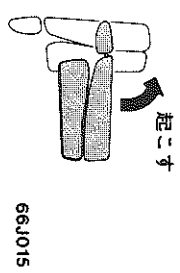
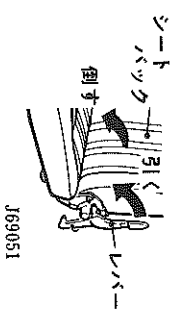
スライド調整 (運転席)



スバパで①をゆるめてシートを
調整する。
・シート調整後は①を確実に
締め付ける。

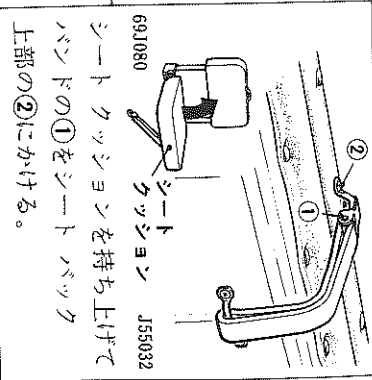


フロントシートの折りたたみ (助手席)



1. レバーを矢印の方向へ操作してシートバックを前方へ倒す。
2. シート全体を持って前方へ起こす。

リヤシートの折りたたみ

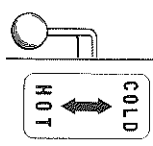


69J080
シートクッション J55032
シートクッションを持ち上げて
バンドの①をシートバック
上部の②にかける。

ヒータ及びベンチレーションの使い方

ヒータ コック

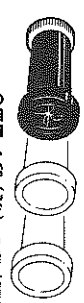
ヒータを使用しないとき



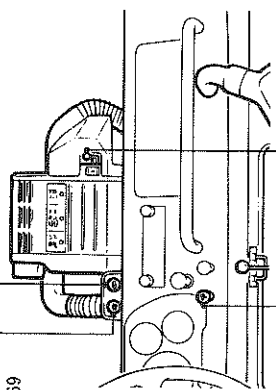
ヒータを使用するとき

ファン スイッチ

送風量を2段階に切り換える。



OFF 1段(強) 2段(弱)



69J007

内外気切り換えノブ

➡ 引く



外の空気が
入ります 室内の空気が
循環します

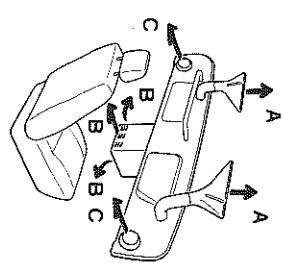
J70076

吹き出し口切り換えノブ △印の吹き出し口からは、少し吹き出します。

ノブ 位置

吹き出し口

ノブ 位置	吹き出し口		
	A	B	C
J69006	●	△	●
J58019	△	●	△



70J090

ドライバーの心得

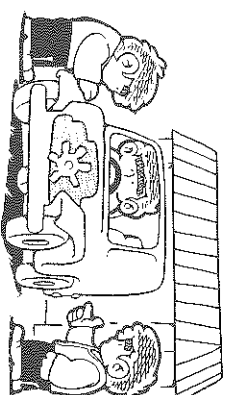
点検, 整備について.....	ページ 8
安全のために.....	10
エンジンの始動, 停止について.....	11
走行するときは.....	12
駐車車について.....	13
故障を防ぐために.....	13
装備品, オプション部品の取り扱い.....	14
もしものときの処置.....	14
燃料節約の「ひけつ」.....	17
純正部品について.....	17

この項には, 「特に知っておいていただきたいこと, また守っていただきたいこと」を記載してありますので, ご使用前に必ずお読みください。

安心を乗せてドライブを...

点検, 整備について

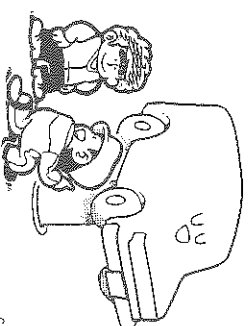
運行前点検は必ず1日1回走行前に行なってください。



72J072

1日1回走行前に運行前点検を行うことが義務づけられています。事故や故障を未然に防ぐために必ず行なってください。

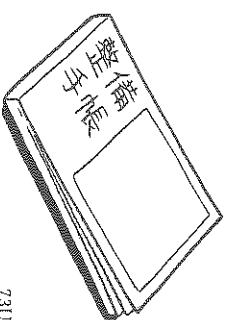
定期点検



67W038

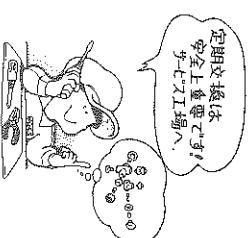
車を運転する人は法令(道路運送車両法)により, 定期点検を行うことが義務付けられています。

定期点検を行うことにより車をいつも安全な状態に保ち, また排気ガス中のCO(一酸化炭素)などによる大気汚染を防止するためにも必ず行なってください。
詳しくは別冊の「整備手帳」に説明してありますのでご参照ください。



73U0018

定期交換部品



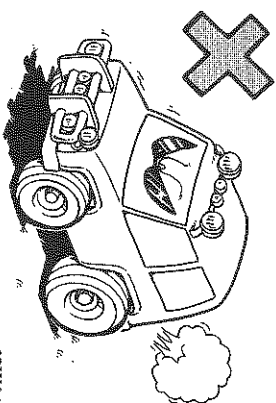
90H042

定期的には部品を交換する必要がありますので, 別冊「整備手帳」に基づいて交換してください。

法令で定められている

保安基準に合わなくなる

ような改造はしないで
ください。



67W045

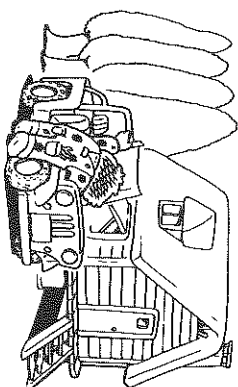
保安基準に合わなくなるような
突起物や幅広タイヤなどの装備は
違反となりますので行なわないで
ください。

特に車高を変えるような改造は絶
対に行わないでください。

エンジン調整は

三菱販売会社で

行なってください。



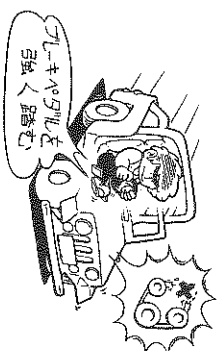
J67017

アイドリング回転数などのエンジン
調整はエンジン性能や排気ガスなどに
悪影響を与えますので、
三菱販売会社で行なってください。

ベルトの点検は

確実に

行なってください。



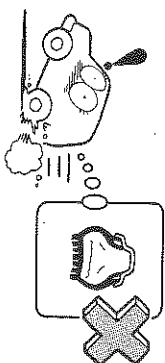
J67030

ブレーキ ベルトが切れるとブレーキ
倍力装置が働かなくなり、ブレーキの
ききが悪くなります。通常より
ブレーキ ペダルを強く踏んで車を
安全な場所に止めてください。

タイヤの空気圧は

正しく

調整してください。

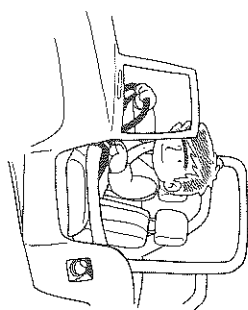


67U0119

空気圧が低いままでは走行を続けると
タイヤがパンクするおそれがあります。
• タイヤ プレッツジャゲージがなく
空気圧が正しく調整できないときや
空気圧が不足しているときは、
ひかえめなスピードで走行して
ください。
• スペア タイヤの空気圧はときどき
点検してください。

安全のために

シートベルトは必ず
装着してください。



J67003

車を運転する前に必ずシートベルトを腰骨の位置にぴたりと装着してください。

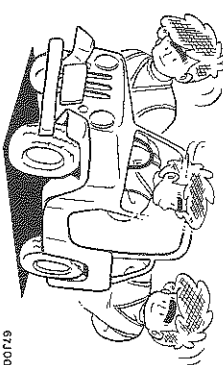
運転席付近に運転を妨げる
ような物を置かないで
ください。



Y67020

ブレーキペダルの下に物がごろがり
込むとブレーキの操作ができなくなる
などの危険な場合があります。

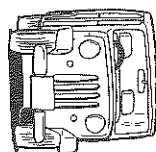
車を発進又は後退させるときは
周りを自分自身で
よく確認してください。



67J0045

4WD車は構造上、一般の乗用車に
くらべて車高が高くなるため運転
席からでは十分に確認できない視
界（車両の直前、左斜め前方及び
後方）があります。

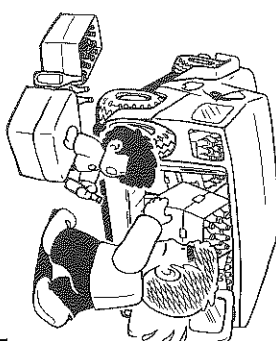
お子さまを乗せるときは、
次のことをお守りください。



J67031

- ドアの取り扱い（開閉・施錠）は必ずおとなが行なってください。
- 荷物室でお子さまを遊ばせないでください。運転中は大変危険です。
- シートベルトを着けたとき、肩ベルトが首、あご、顔などに当たるような小さなお子さまや乳児は別売のチャイルドシート又はジュニアシートをご使用ください。
- 車から離れるときはお子さまも一緒に連れて行ってください。
- お子さまのいたずらにより車が発進したり火災など思いがけない事故につながるおそれがあります。
- また直射日光下では車内が高温になります。絶対ににお子さまを一人で車に残さないでください。
- 窓から手や頭を出さないでください。運転中は大変危険です。
- 特に狭い道路、高架下などを運転するときには、事前にお子さまが手や頭を出していないか、おとなが確認してください。

荷物は必ず指定積載重量まで
してください。



J67010

乗車定員及び積載量は次のとおりです。

乗車定員………4人

積載量………250kg（2人乗車時）

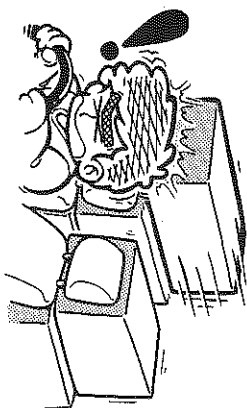
重い荷物は、できるだけ前の方に
積んでください。

うしろの方が重くなるとハンドルが
不安定になります。

また、運転しているとき、荷ぐずれ
しないように注意してください。

エンジンの始動、停止について

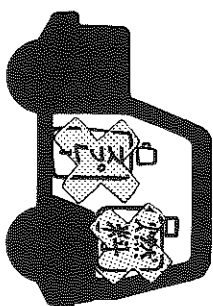
室内にはシートの高さ以上に荷物を積まないでください。



67W043

後方の確認ができなくなったり、急ブレーキをかけたときに荷物が飛び出して危険です。

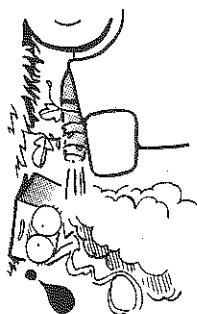
車内に燃料が入った容器やスプレー缶類を持ち込まないでください。



W67013

車内や荷物室内で容器が破損したり蒸発ガスに引火すると大変危険です。

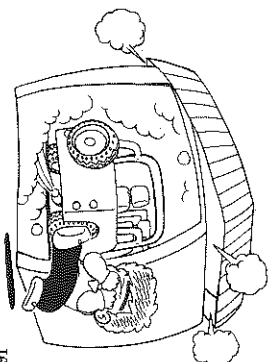
エンジンをかける前には、車の後方に燃えやすいものがないか確かめてください。



67U0040

排気管に枯草などが巻き付いていたり、車の後方に燃えやすいものがあると万ーの場合、着火する危険があります。

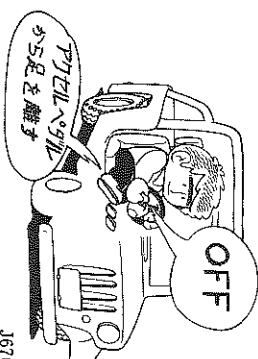
暖機運転は風通しの良い所で
行なってください。



J167002

周囲がかこまれた場所で長い間エンジンをかけたままにしておくと、排気ガスによりガス中毒となるおそれがあります。

エンジンを止めるときは
アクセルペダルを
踏まないでください。

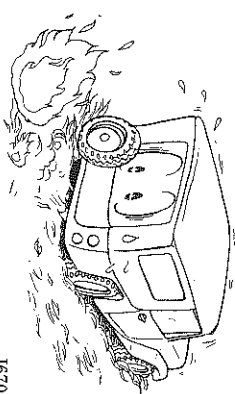


J167012

アクセルペダルを踏んだままエンジンスロットルを切ると未燃焼ガスが多量に排出されます。

また排気管より大きな音がすることがあったり、エンジンストップ装置に悪い影響を与え、エンジンが止まらなくなるおそれがあります。

枯草やボロ布などの
燃えやすいものが
ある場所には車を
止めないでください。



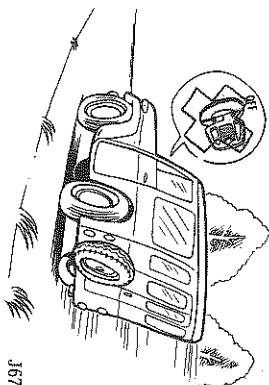
J167011

運転中は排気管がかなり高い温度になり、万ーの場合、枯草やボロ布などに火がつくと大変危険です。

また排気ガスは高い温度になることがありますので、車の後方に燃えやすいものがない場所に車を止めてください。木材やベニヤ板などが車の後方にあるときは車の後端を30cm以上離して止めてください。すきまが少ないと排気ガスにより変色や変形したり、万ーの場合には、着火する危険があります。

走行するときは

運転しているときは
エンジン スイッチを
絶対に切らないでください。

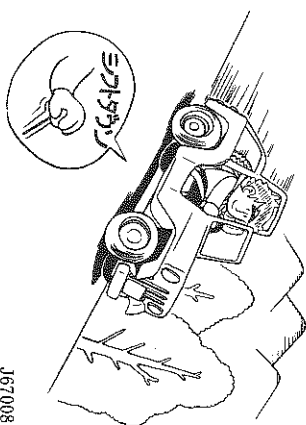


J67040

- フレーキ倍力装置が働かなくなり
ブレーキのききが悪くなります。
- 誤ってキーを抜くとハンドルが
回らなくなり危険です。

坂道を下るときは

フットブレーキだけに頼らず
エンジンブレーキを
活用してください。

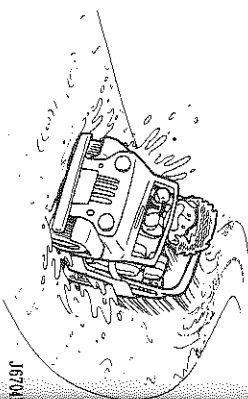


J67008

長い下り坂でフットブレーキのみを
多く使用すると、ペーパロックや
フエード現象を起こし、ブレーキの
ききが悪くなることがあり危険です。
シフトレバーを低速ギヤにシフト
ダウン(減速)し、エンジンブレーキ
を活用してください。
ただし、ぬれた道路や凍結した道路
での急激なエンジンブレーキは
スリップして危険ですので避けて
ください。

水たまりを運転したとき

又は洗車したときは
ブレーキのきき具合を
点検してください。



J67041

ブレーキに水がかかると一時的に
ブレーキのききが悪くなること
があります。

また洗車などでブレーキに水が
かかったまま車を長時間駐車すると、
錆が発生しやすくなり、異音の原因
となることがあります。
水がかかったときは、前後の車に
十分注意して低速で走行しながら
ブレーキのききが回復するまで数回
軽くブレーキペダルを踏み、ブレーキ
のしめりを乾かしてください。

ペーパロックとは…

ブレーキ液がブレーキの摩擦熱により
過熱されて沸騰して気泡が発生し、
ブレーキペダルを踏んでも気泡を
圧縮するだけでブレーキがきかなく
なる現象。

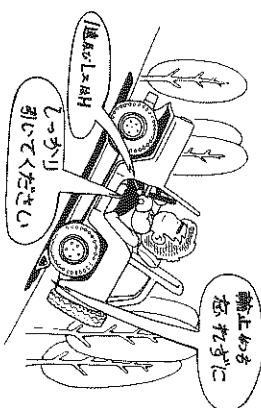
フエード現象とは…

ブレーキの摩擦面が過熱されると
摩擦力が低下してブレーキのききが
悪くなる現象。

駐車停車について

坂道で駐車するときは
駐車ブレーキレバーを
しっかりと引き

シフトレバーを入れてください。



J67013

トランスミッションシフトレバーは
上り坂では1速，下り坂では「R」に
入れてください。トランスミ
ッションレバーは上り坂，
下り坂とも「N」以外の位置に入れ
輪止めをしてください。

急な坂道での駐車は避けてください。

• 輪止めは三菱販売会社でお求めく
ださい。

車から離れるときはエンジンを
止めてください。

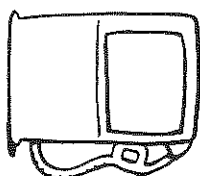
車の盗難や火災などを未然に防ぐ
ため，エンジンを止めて，ドアを
ロックしてください。

エンジンをかけたまま運転席で
寝込まないでください。

無意識にアクセルペダルを踏み続け
たりして，思わぬ事故につながります。
また周囲がこまれた場所では，
排気ガスによりガス中毒になる
おそれがあります。

故障を防ぐために

エンジン性能を維持するため
必ず軽油をご使用ください。



67T042

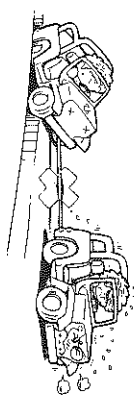
クラッチペダルの操作は
確実に行なってください。



J67042

エンジンの回転が高いつきクラッチを
急激に接続したり中途半端な踏み方を
すると，けん引力が大きいので
クラッチやトランスミッションなどを
損傷させるおそれがあります。

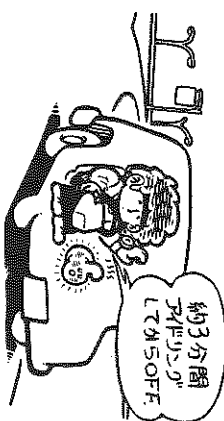
斜めけん引や無理なけん引は
行わないでください。



J67043

斜めけん引や無理なけん引をしたり
またけん引時，急激な発進をすると，
けん引力が大きいので
トランスミッションなどを損傷させる
おそれがあります。

ターボチャージャーの
機能を損傷させないために，
次のことをお守りください。



67W031

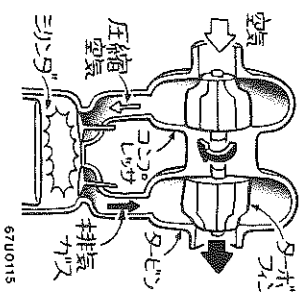
• エンジンをかけた直後は，空ふかし
や急加速など，エンジンを高回転
させないでください。

故障を防ぐために

- ・高速回転又は、登坂運転した直後はエンジンですぐに止めないで約3分間アイドリング回転したあと、エンジンを止めてください。
- ・エンジン オイルは必ず「給油脂一覧表」に記載のエンジンオイルをご使用ください。

ターボとは………

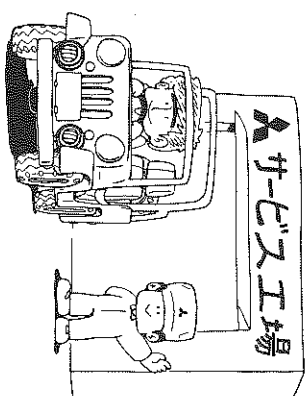
正式にはターボチャージャーといい、シリンタ内へ大量の空気を過給してより大きなパワーを引き出します。ターボファンは超高速で回転し、高温下で使われ、その潤滑と冷却をエンジンオイルで行なっています。エンジンオイルは定められた時期に交換しないとターボ軸受部の固着、異音の発生などの原因となります。



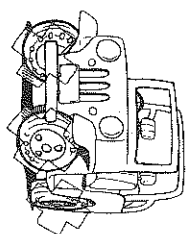
67U0115

装備品、オプション部品の取り扱い

- 装備品やオプション部品を取り付けるときは三菱販売会社にご相談ください。
- 規定サイズ以外のホイール、タイヤは使用しないでください。



J67016



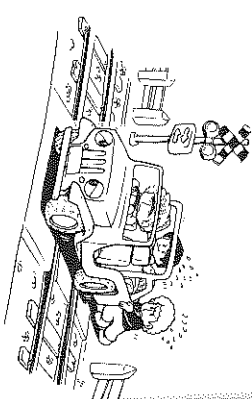
J67044

フォグランプなどの電装品を取り付けるときは、電気配線に容量以上の負荷をかけないでください。

接続や固定を確実にしないと危険ですので、取り付けるときは三菱販売会社にご相談ください。

もしものときの処置

踏切内で動けなくなったときは



J73001

同乗者又は付近の人に応援を求め車を安全な場所まで移動してください。緊急のときは同乗者をすみやかに安全な場所に避難させ保安炎筒や踏切支障報知装置で列車に合図してください。

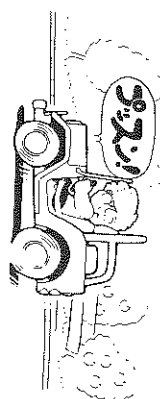
- ・トランスミッションシフトレバーを2速か3速に、トランスアラコントロールレバーを2輪高速に入れたラッチペダルから足を離しエンジンスイッチを「START」にすれば車を動かすことができます。

運転中にエンジンしたときは /

高速道路で故障したときは /

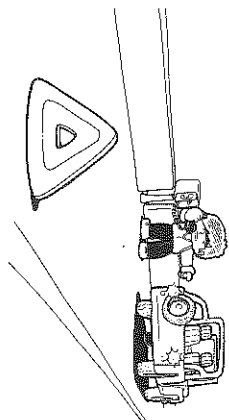
オーバーヒートしたときは /

(水温計の針がレッドゾーンにあるとき)



J67033

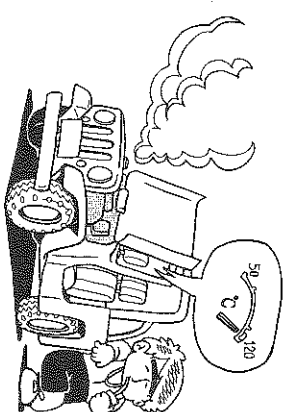
ブレーキ倍力装置が働かなくなり
ブレーキのききが悪くなりますので
通常よりブレーキペダルを強く踏んで
車を安全な場所に止めてください。



J67032

道路の端の安全な場所に車を止め、
ハザードランプをつけ、さらに
停止表示器を使って他の車に車が
止まっていることがはっきりわかる
ようにしてください。
人は車内に残らず安全な場所に避難
してください。

• 停止表示器は、三菱販売会社でお
求めください。



J79007

車を安全な場所に止めて、次の処置を
行なってください。

1. エンジンをかけたままフードを開け
てエンジンルーム内の風通しを
よくし、エンジンを冷やして
ください。

• エンジンフードを開けるときは、
熱湯の漏れがあったりフードが熱
いことがありますので気をつけ
てください。

• コンデンスタンクキャップより
蒸気が噴き出していることが
ありますのでやけどをしないよう
十分気をつけてください。

2. 水温計の針が下がってきたら
エンジンを止めます。

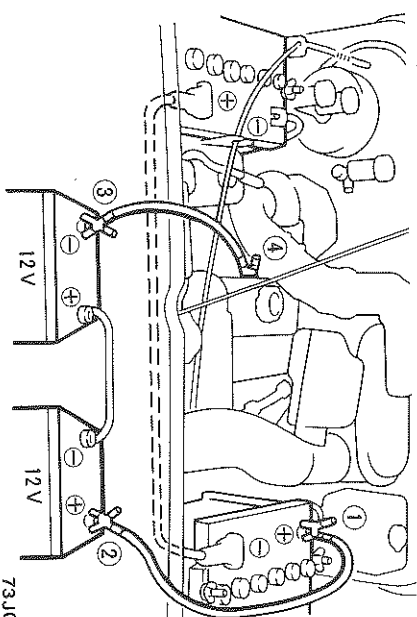
3. エンジンが十分冷えてから、冷却水
があるか、またファンベルトに
ゆるみがないかを点検してください。

ご注意

• ファンベルトが切れているときは、
エンジンをただちに止めてください。
• 冷却水の温度が高いときは、ラジエータ
キャップを外さないでください。
急にキャップを外すと、冷却水に
圧力がかかっていますので、蒸気や
熱湯が噴き出して思わぬやけどをする
ことがあります。
• エンジンが熱いとき、冷たい水を急に
入れると、エンジンが破損するおそれか
があります。少しずつゆっくりに入れて
ください。

もしものときの処置

バッテリー上がりしたときは、



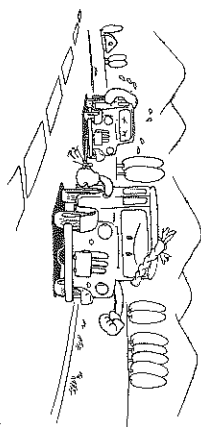
- バッテリーが上がってエンジンの始動ができなくなったときは、ブースタケーブルを使用し、他車のバッテリー(24V 1個又は12V 2個)を電源として、次の手順でエンジンを始動することができます。
1. ブースタ ケーブルを図の順序で接続してください。
 - ④の接続は必ずエンジン本体(フックなど)にしてください。バッテリーの①側にすると、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
 - ①②を逆に接続しないでください。
 2. 接続した後、他車のエンジン回転数を少し上げて、自車(バッテリー上がり車)のエンジンをかけます。

3. 始動したら、ブースタ ケーブルを取り付けた逆順序で取り外してください。
- バッテリーはすみやかに完全充電してください。
- ブースタ ケーブルは24V用のものを三菱販売会社でお求めください。

ご注意

- 押しがけによりエンジンを始動することは危険ですから絶対に行わないでください。
- ブースタ ケーブルを接続するときは、④と②端子を絶対に接触させないでください。
- ブースタ ケーブルが冷却ファンやベルトに接触しないように接続してください。

けん引のしかた

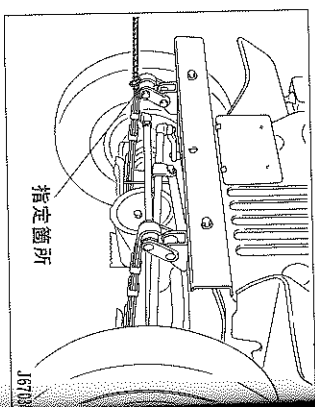


故障車の移動はできるだけ専門業者に依頼してください。
やむをえずけん引するときは次の要領で行ってください。

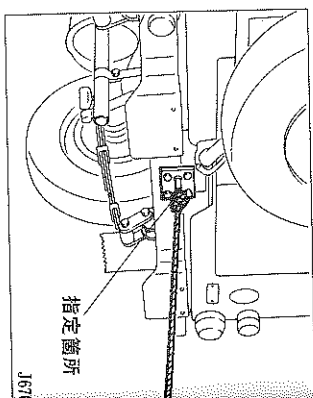
1. けん引ロープを指定された箇所に結びつけてください。

- けん引ロープの指定された箇所はけん引して運転するときに使用するものです。
- 車輪が溝などに落ちたときは無理なけん引や斜めけん引をしないでください。
- ロープは水平なままでけん引してください。
- 水平でない位置にかけてけん引するとボデーを傷つけるおそれがあります。

フロント



リヤ

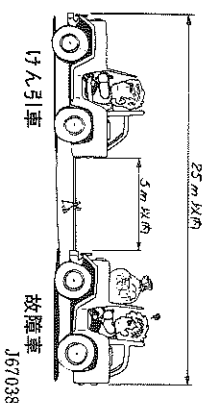


ご注意

- けん引ロープは必ず指定された箇所にかけてください。他の箇所ではけん引すると車が傷つくことがあります。

燃料節約の“ひけつ”

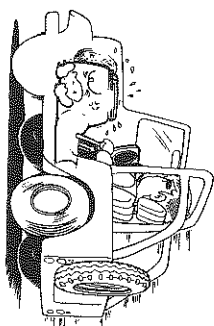
2. 図のように車間距離を保ち、ロープの中央に30cm平方以上の白布を取り付けます。



3. 運転者は互いに連絡をとりながら、静かにけん引してください。
急発進や緊急時以外の急停車は絶対にしないでください。

エンジンを止めたままで故障車を運転するときには次のことを守りください。

- ハンドル ロックを解除するためにエンジン スイッチを「ACC」の位置にしてください。
- ブレーキのききが悪くなりますので通常よりブレーキ ペダルを強く踏んでください。
- 故障車はシフト レバーを「N」位置にしてください。
- 長い下り坂ではブレーキの使用が多く、ブレーキの過熱によりききが悪くなるおそれがありますので時々、車を止めてブレーキを冷やしてください。

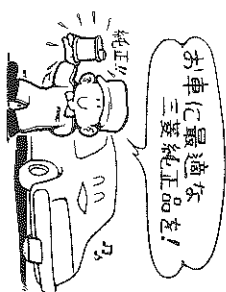


燃料を節約して運転するためには次のことを守りください。

- 暖機運転をしすぎないようにしてください。
- ムダな荷物を載せないように心掛けてください。
- できるだけ一定のスピードで運転してください。
- 空ぶかしはつっしんでください。
- 正しい変速を行なってください。
- 急発進、急加速、急ブレーキは避けてください。
- 長い時間車を止めるときはエンジンを止めてください。
- タイヤの空気圧は規定の空気圧に調整してください。
- 一般道路又は高速道路を運転するときは、トランスファ コントロール レバーを2輪高速の位置にしてください。

純正部品について

あなたの車に最適な純正部品をご使用ください。



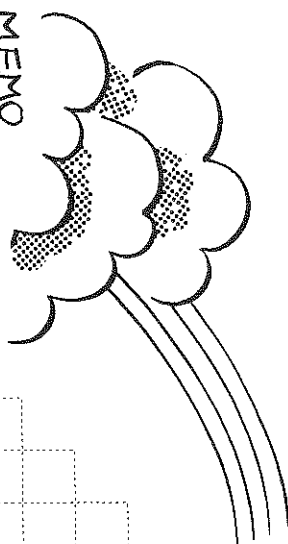
純正部品は弊社の新車に使われているものと同じ部品で、きびしい検査に合格し、その品質が保証されています。また、三菱販売会社を通じていつでもどこでもお求めになれます。

純正部品には次のマークが貼ってあります。



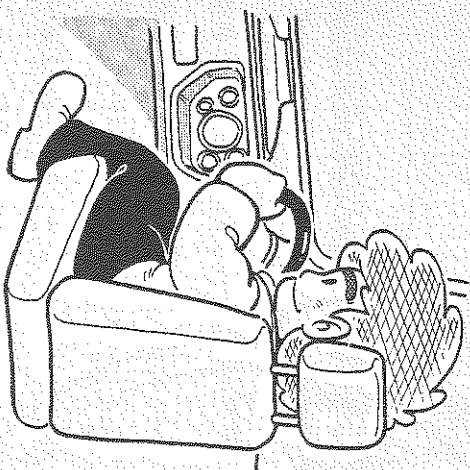
MEMO

C66008



メータとスイッチの見方・使い方

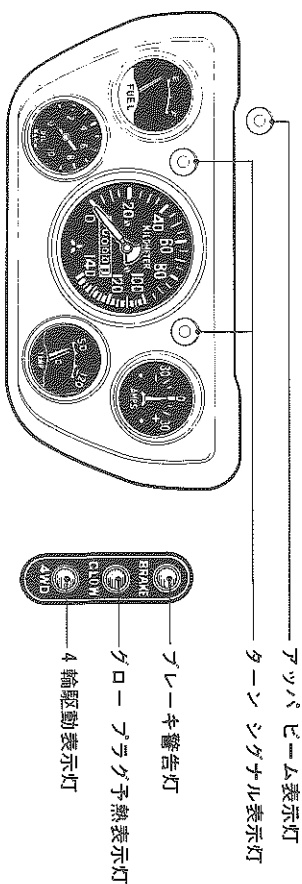
メータとスイッチの配置	19
メータの見方	21
警告灯と表示灯の見方	22
スイッチの使い方	23



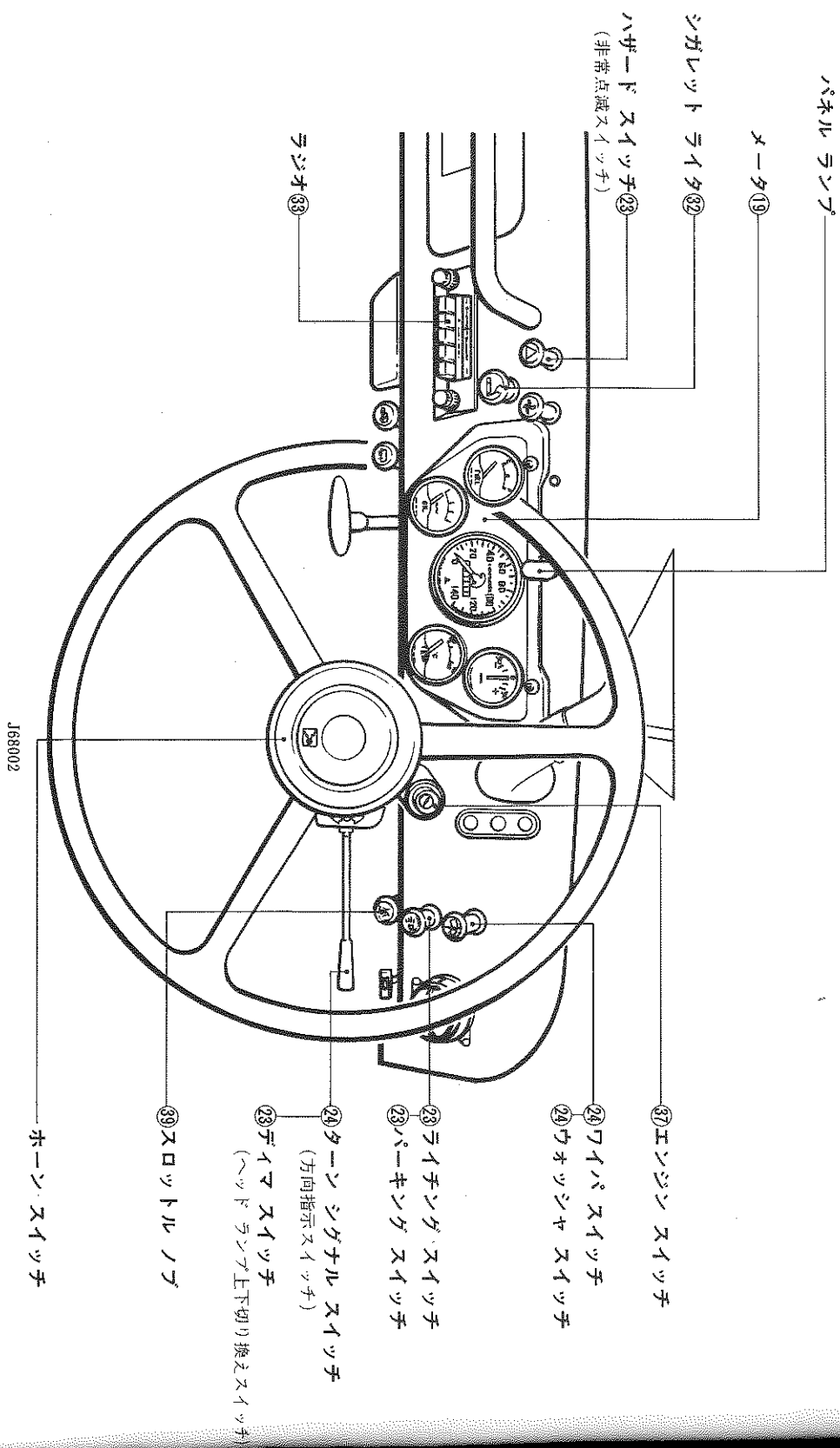
66J020

運転席はあなたのもの...

メータとスイッチの配置

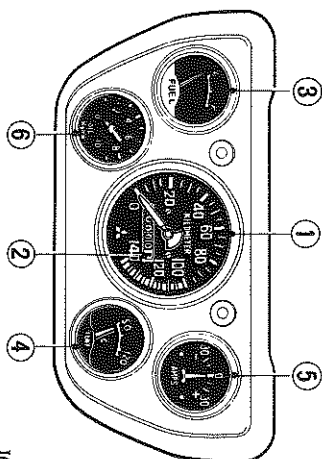


メータとスイッチの配置



○内は説明ページを示します。

メーターの見方



J66003

① スピードメーター

走行スピードをkm/hの単位で示します。

約100km/h以上になるとブザーが鳴って警告します。

② 積算距離計

走行した全距離をkmの単位で示します。

白地に黒数字は100mの単位です。

③ 燃料計

エンジンスイッチが「ON」のとき燃料の残量を示します。

F……満タン(約45ℓ)です。
E……燃料を入れてください。

④ 水温計

エンジンスイッチが「ON」のときエンジン冷却水の温度を示します。

運転中は目盛りの赤色表示部(レッドゾーン)より内側をさせば正常です。針が赤色表示部に入るときは、エンジンがオーバーヒート気味です。ので、すみやかに車を安全な場所に止めて適切な処置を行なってください。「もしものときの処置…オーバーヒートしたときは」の項をご参照ください。

⑤ 電流計

バッテリーの充放電電流量を示します。

運転中、針が中央又は⊕側を示せば良好です。運転中に針が⊖側を常時示すときは電気装備品の使いすぎ又は充電系統の異常です。またフアンベルトが切れたことも考えられます。三菱販売会で点検を受けてください。フアンベルトが切れるとブレーキ倍力装置が動かなくなり、ブレーキのききが悪くなりますので、通常よりブレーキペダルを強く踏んで車を安全な場所に止めてください。

⑥ 油圧計

エンジンオイルの油圧を示します。

エンジンの回転中に針が次の数値を示せば正常です。

エンジンの回転状態	エンジンオイルの圧力
アイドトル回転	1 kg/cm ² 以上
普通走行時	3~5 kg/cm ²

エンジンの回転を上げても針が動かないときは、エンジンを止めてオイル量を点検し、不足していれば補給してください。

• エンジンオイルの点検、補給については別冊の「整備手帳」に記載されていますのでお読みください。

ご注意

• エンジンオイルが不足したまま運転したり、エンジンオイルの量が正規であつても油圧が低いまま運転すると、エンジンが焼き付くことがあります。エンジンオイルの量が正規であれば他に異常がありますので、三菱販売会で点検を受けてください。

警告灯と表示灯の見方

グロー プラダ予熱表示灯(GLOW) ブレーキ警告灯 (BRAKE)

グロー プラダの予熱状態を

表示します。

寒冷時はエンジン スイッチを「ON」にすると点灯し、約8秒後に消灯します。

常温時は点灯しません。

- 表示灯が消灯していることを確認後、エンジンをかけてください。

エンジン スイッチが「ON」のとき、

エンジン スイッチが「ON」のとき、

次のような場合にランプが点きます。

- 駐車ブレーキ レバーを引いているとき。
- フォート ブレーキ関係にブレーキ液漏れが生じたとき。

運転する前にランプが消えていること

を確認してください。

ブレーキ ペダルを強めに踏み込んだとき、又は駐車ブレーキ レバーを戻してもランプがついているときは三菱販売会社で点検を受けてください。

運転中にブレーキ ペダルを踏み込み

ブレーキ警告灯がついたときは

フロント側又はリヤ側のブレーキ系統のどちらかにブレーキ液の漏れが生じていることが考えられますので、

ただちに車のスピードを下げて安全な場所に止め、三菱販売会社へ連絡して点検を受けてください。

ブレーキ ペダルを踏んだとき、

ブレーキのききが悪いときは通常より強く踏んでください。

万一、ブレーキがきかないときは、エンジンブレーキでスピードを

下げてから駐車ブレーキ レバーをゆっくり引いて車を止めてください。

駐車ブレーキ レバーを急に引くと後輪がロックして車が横すべりを起こすことがありますので、危険です。駐車ブレーキ レバーの操作は注意して行なってください。

- 下り坂や積雪路などで、ブレーキペダルを何度も繰り返し踏み込みますと一時的に警告灯が点灯することがありますが、これは故障ではありません。

4 輪駆動表示灯 (4WD)

エンジン スイッチが「ON」のとき

トランスファ コン트롤 レバー

4 輪駆動にするとランプが点きます。

アップ ビーム表示灯

ヘッド ランプの照らす方向が上向き
のときランプが点きます。

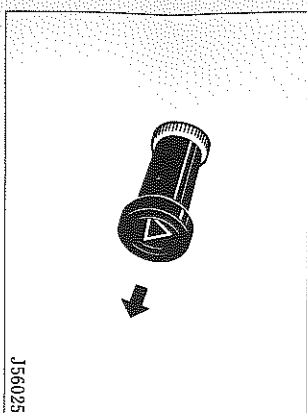
ターン シグナル(方向指示)表示灯

ターン シグナル ランプと同じ側の
表示灯が同時に点滅します。

- ターン シグナル ランプが切れたときや、容量(ワット数)の違うものを使用したときは点滅が異常になります。

スイッチの使い方

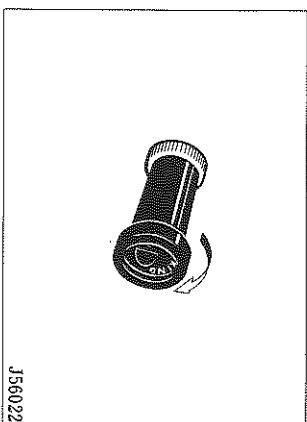
ハザード(非常点滅)スイッチ



スイッチを引くとすべてのターンシグナルランプが点滅します。故障などでやむをえず路上に車を止めたときなど、他の車に知らせるためにご使用ください。

- 長い間点滅させておくとバッテリーが上がり、エンジンがかかりにくくなる場合があります。バッテリーが完全充電の状態で約2時間使えます。

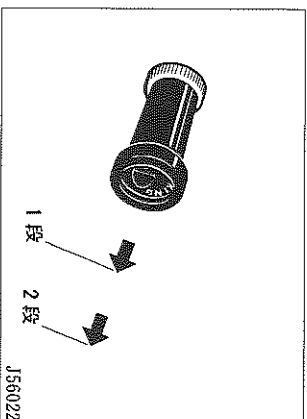
パーキングスイッチ



スイッチを右に回すと前後左右のパーキングランプがつかきます。駐車するときにご使用ください。

- 長い間つけておくとバッテリーが上がり、エンジンがかかりにくくなる場合があります。バッテリーが完全充電の状態で約8時間使えます。

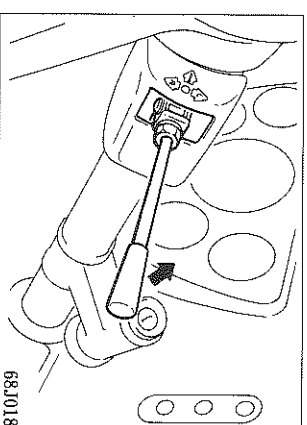
ライティングスイッチ



スイッチを引くと、下表のランプがつかきます。

ランプ名称	1段	2段
ヘッドランプ(前照灯)	—	※
クリアランスランプ(車幅灯)	※	※
テールランプ(尾灯)	※	※
ラセンブレーキランプ(番号灯)	※	※
パネルランプ	※	※

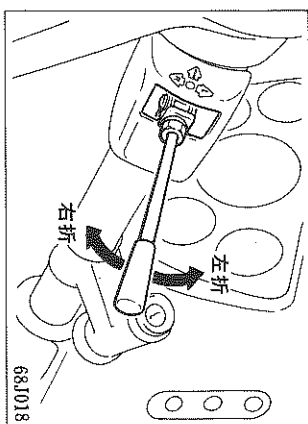
テイル(ヘッドランプ上下切り換え)スイッチ



レバーを手前に引くたびにヘッドランプの照らす方向が上下に換わります。上向きにしたときは同時にアップビーム表示灯がつかきます。

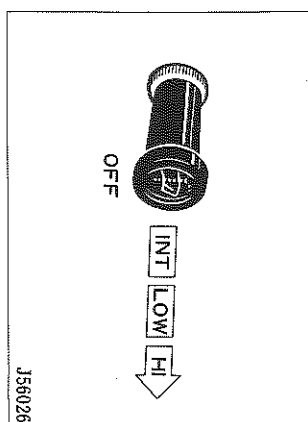
スイッチの使い方

ターンシグナル(方向指示)スイッチ



エンジン スイッチが「ON」のとき、レバーを操作するとターンシグナルランプが点滅します。レバーは自動的に戻りますが、ゆるいカーブなどで戻らないときは、手で戻してください。

ワイパ スイッチ



エンジン スイッチが「ON」のとき、ワイパを操作すると、ワイパが動きます。雨の量に応じてご使用ください。

INT

ワイパが約6秒ごとに動きます。

LOW

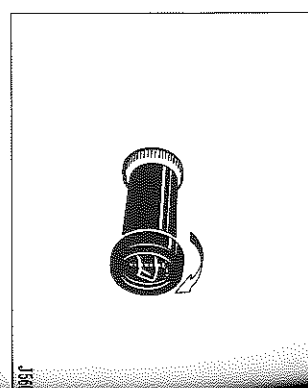
ゆっくりしたスピードで連続して動きます。

HI

早いスピードで連続して動きます。

- ガラスがほこりや泥で汚れているときは、必ずウォッシュ液を噴射してください。
- ガラスに傷が付くことがあります。
- スイッチを操作してもワイパが動かないときは、すみやかにスイッチを「OFF」にしてください。
- 入れたままにしておくとモータが焼き付くことがあります。

ウォッシュ スイッチ



エンジン スイッチが「ON」のとき、スイッチを回している間ウォッシュ液が噴射します。

ウォッシュ液が噴射するとワイパ自動的に2～4回動きます。

- ウォッシュ液を連続で20秒以上使用したり、ウォッシュ液が出ないに使用しますと、モータが焼き付くことがあります。



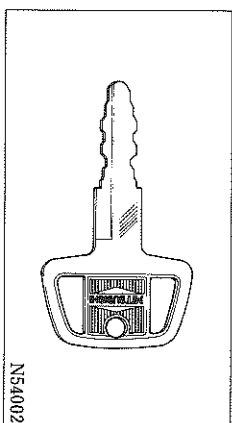
車体各部の開閉と 室内装備の使い方

	ページ
• キーの種類	25
• ボアの施錠・開閉	25
• リヤゲートの開閉	26
• ドアカーテン ウィンドウの開閉	26
• エンジン フードの開閉	27
• 燃料の補給	27
• 幌の取り扱い	27
• ウィンドシールドの折りたたみ方	29
• セフチー ベルトの使い方	29
• シートの調整	29
• シート ベルトの使い方	30
• クローブ ボックスの開閉	31
• サンバイザー(日よけ)の使い方	31
• シカレット ライタの使い方	32
• 灰皿の使い方	32
• 保安炎筒の使い方	32

安全チェックはいつも忘れずに...

キーの種類

フスタ キー(2個)

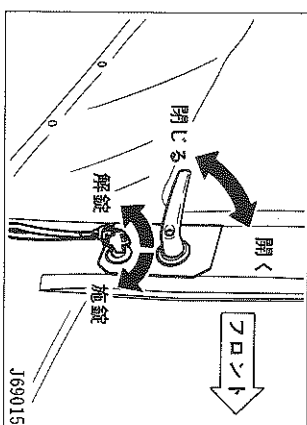


すべてのキー シリンダに使用できます。

• キー ナンバを控えておいてください。万一、キーを紛失したときでもキー ナンバをもよりの三菱販売会社へ連絡していただければ、キーを作ることができます。

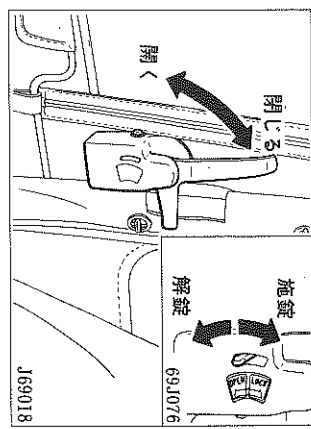
ボアの施錠・開閉

車外より



ドアの施錠・開閉

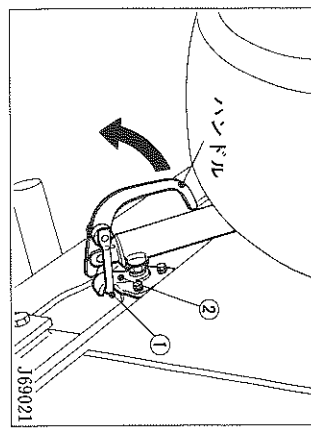
車内より



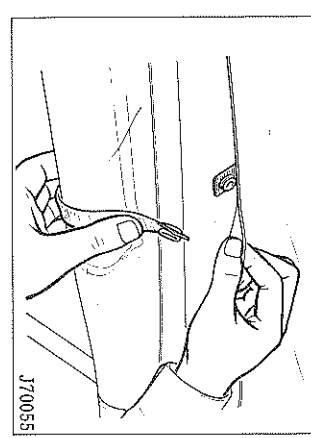
• 半ドアは大変危険ですので
ドアは確実に閉じてください。

リヤゲートの開閉

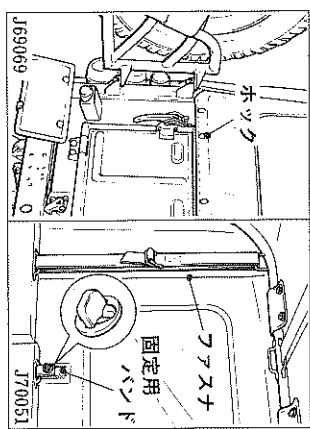
1. ハンドルを起こしてリンク①を
フック②から外します。



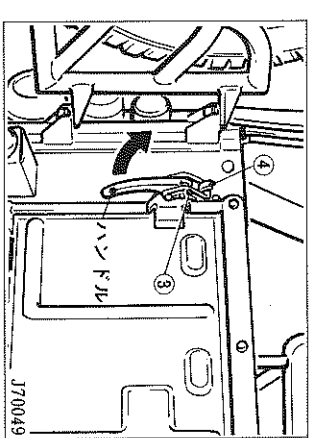
3. リヤカーテンを巻き上げ、フック
で止めます。



2. スベア タイヤハンガを後方に
移動してリヤカーテンのフック、
フラスナ及び固定用バンドを
外します。

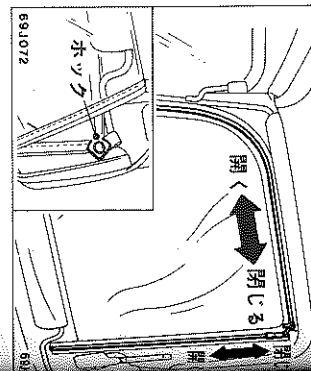


4. リヤゲート左右のハンドルを起こして
リンク③をフック④から外した後
リヤゲートを開きます。

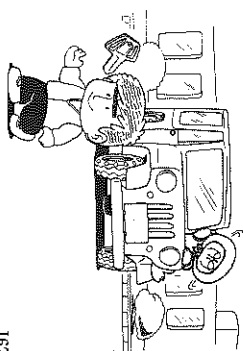


• 運転中は安全のためリヤカーテン
のフラスナ及び固定用バンドのホ
ックは確実に取り付けてください。

リアカーテンウイングの 開閉(運転席側)



開放した窓はフックで止めておいて
ください。

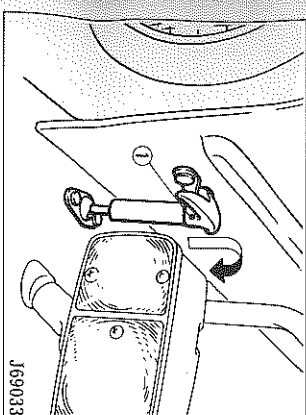


J67015

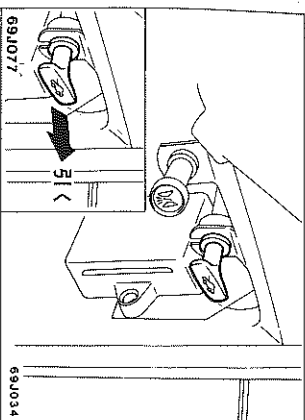
エンジンフードの開閉

開 け 方

1. フード キヤッチ①を外します。



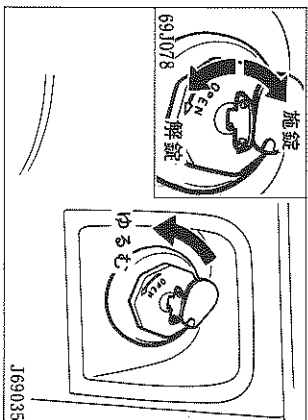
2. フード リリーズ ノブを引いて フードを開きます。



ご注意

- ・風の強いときにフードを開けると風にあおられ危険な場合があります。十分注意してください。
- ・フードは確実に閉じてから運転してください。フードが完全に閉じていないまま運転するとフードが開くことがあります。危険です。

燃料の補給



キーで解錠した後、キーをつけたまま キヤッチを外します。

指定燃料：軽 油

・燃料タンクの容量は約45ℓです。

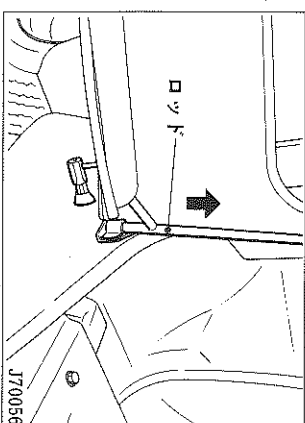
ご注意

- ・燃料を入れるときは、必ずエンジンを止めてください。またタバコの火などは消してください。
- ・必ず指定された燃料をご使用ください。

幌の取り扱い

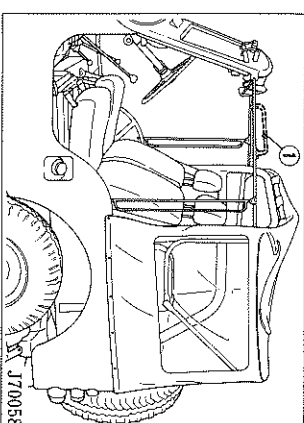
幌の折りたたみ

1. ドアを持ち上げロッドの下部を外します。

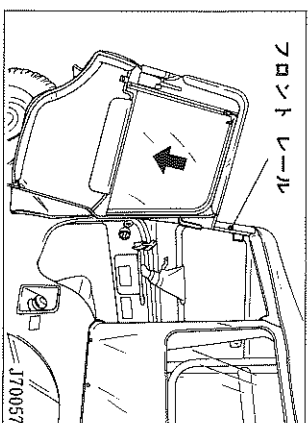


3. トッパカーテンの前(フロント

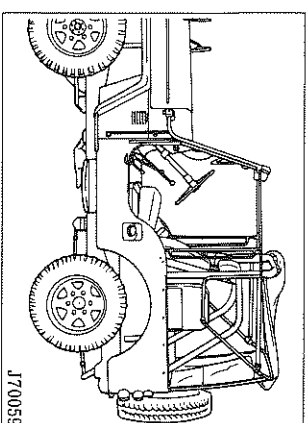
ウインドワ シールド上部)及び側面のホックを外した後、アミスト トッパ ボウ①と一緒にトッパカーテン前部を後方にたたみます。



2. そのまま下に引き、フロント レールからドアを取り外し荷台に格納します。

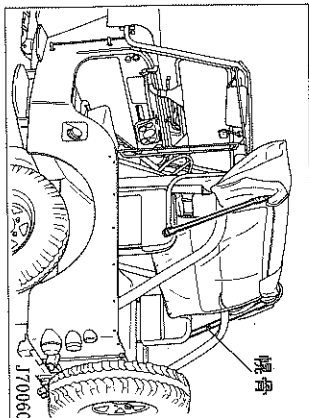


4. サイドカーテンのホック及びアミストを外した後、トッパカーテンの上にたたみます。

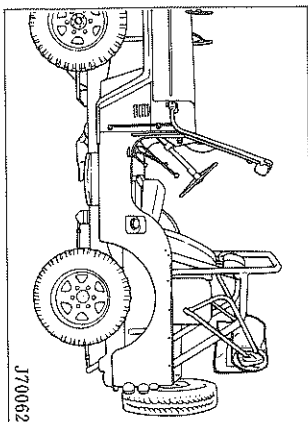


幌の取り扱い

5. リヤカーテンのフック及びバンドを外し、幌骨(後側)を前方へ倒します。



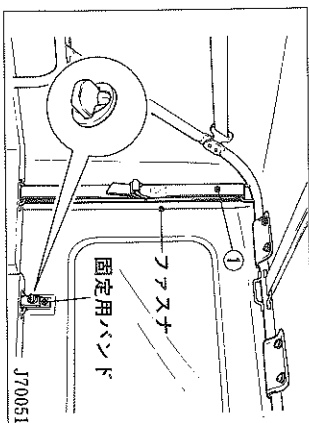
7. 幌骨折りたたみ部にリヤカーテンを巻き付け(2巻)た後、後方へ倒します。



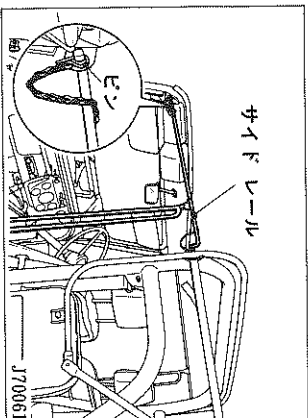
幌の張り調整

幌にしわやたるみがあるときや、張りすぎているときは次の方法で張りを調整してください。

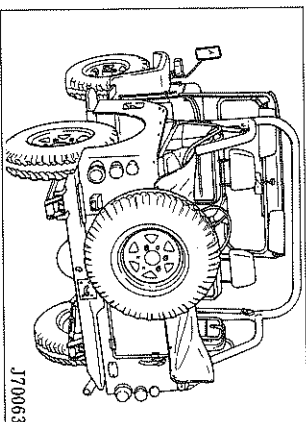
1. リヤカーテン左右のバンド①をゆるめます。ゆるめるだけで外さないでください。



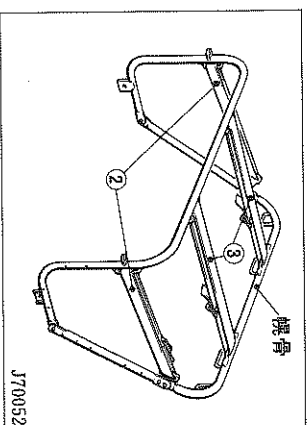
6. サイドレール両端についているピンを抜き取ってサイドレールを取り外し、荷台に格納します。



8. リヤカーテンのフックをテールゲートに止めます。

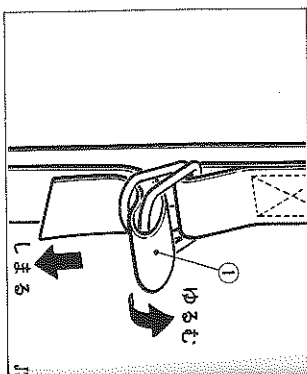


2. 幌の張り状態を確かめながらサイドバンド②とルーフレール③の長さを調整して、幌骨の位置を決めます。



3. リヤカーテン左右のバンド①を締め付けて幌骨を固定します。

バンドの調整



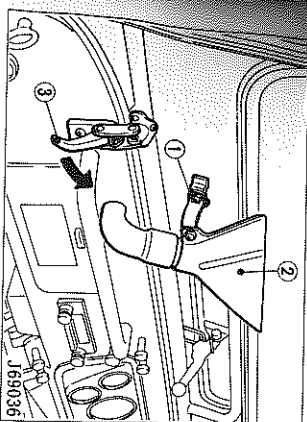
ご注意

- ・ドアを取り外したときは必ずセーフティベルトをかけてください。
- ・リヤシートに人を乗せて運転するときは、幌を取り付けることが、法的に禁じられています。幌を取り外したときにはリヤシートに人を乗せて運転しないでください。
- ・リヤカーテンのフラスナ及び固定用バンドのフックは確実に取り付けてください。万一の場合、積荷などが落ちる危険です。

ウインドシールドの 折のたため方

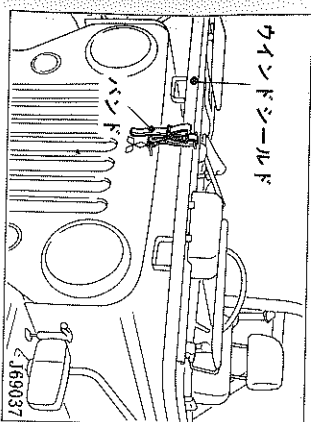
幌を外した後、次の方法で折りたたんでください。

1. ボルト①を外し②を取り外した後、インストルメントパネル左右の③を上方に上げます。

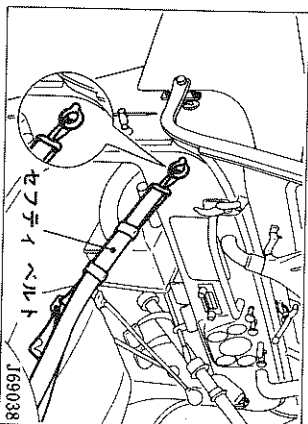


2. ウインドシールドを前に倒し、バンドで固定します。

- ②はボルト①でウインドシールドに付けておいてください。



セフティ ベルトの使い方



助手席側にセフティ ベルトが装備してあります。
ドアを外して運転するときにご使用ください。

- 運転する前に必ず装着してください。
- ベルトを点検し、切り傷や、ほつれ及び金具の変形などがあるときは交換してください。

シートの調整

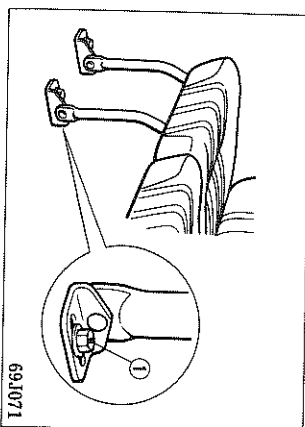
正しい運転姿勢は安全運転の第一歩です。

ペダルを十分に踏み込むことができるゆとりある位置に調整してください。

シート調整の注意事項

- 運転しているときに調整することは危険ですから必ず運転する前に調整してください。
- スライド調整などをしたときは、シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確かめてください。

スライド調整 (運転席)



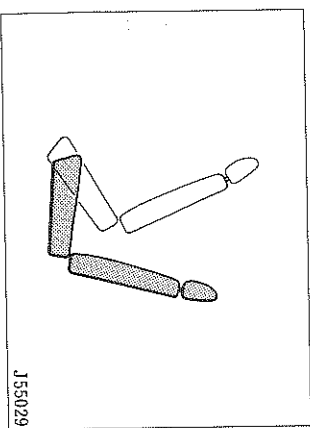
シートが前後方向にスライドします。

スバサで①をゆるめてシートを調整します。シート調整後は①を確実に締め付けてください。

シートの調整

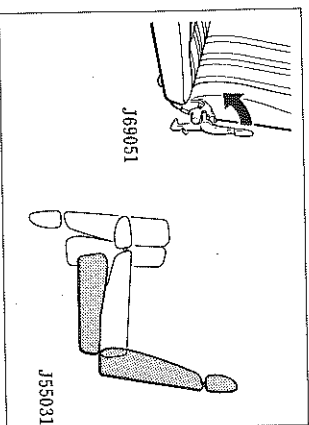
フロントシートの前倒し

(運転席)



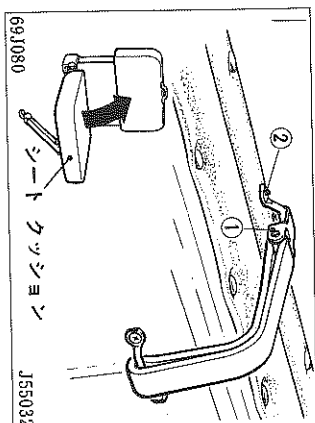
後席への乗り降り、及び工具類の出し入れのときに倒してください。

フロントシートの折りたたみ (助手席)



シートバックが倒れシート全体を前側に折りたたむことができます。

リヤシートの折りたたみ



シートクッションを持ち上げてバンドの①をシートバック上部の②にかけてください。

シートベルトの使い方

万一のとき、運転者と同乗者の安全を守るためシートベルトを設けておきます。

シートベルトは正しく使用しないと効果が半減したり、危険な場合がありますので、次の使い方及び注意事項を守って正しいシートベルトの取り扱いをしてください。

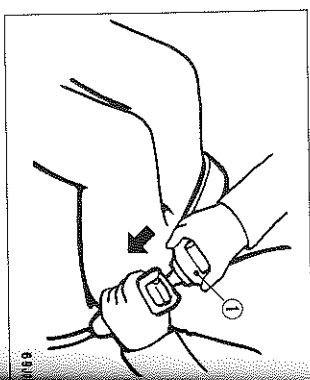
- 運転する前に、シート位置を調節し、正しい姿勢をとってからシートベルトを着けてください。

- 腰部のベルトは、必ず腰骨にかかる位置にしてください。
軟らかい腹部にかけると万一のとき強い圧迫をうけ、危険な場合があります。

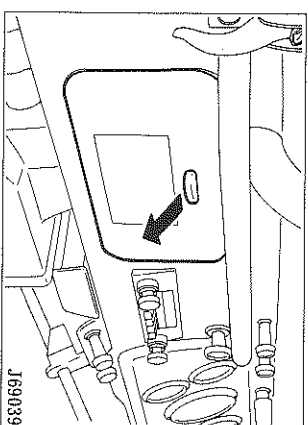
ベルトの長さを調節する必要はありません。万一のときは安全装置が自動的にベルトが固定されます。

着け方

1. 巻き取り装置からブレード①をもつベルトを引き出し、ねじれていることを確かめて「カチッ」と音が出るまで確実にはめ込みます。



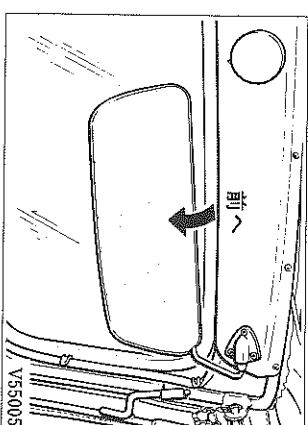
グローブボックスの開閉



小物入れとしてご使用ください。

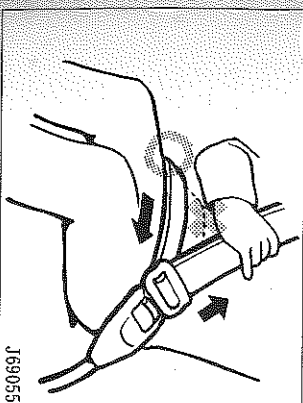
グローブボックスを開けたままで運転すると万一のとき危険ですので必ず閉めてください。

サンバイザ(日よけ)の使い方



シートベルト取り扱いの注意事項

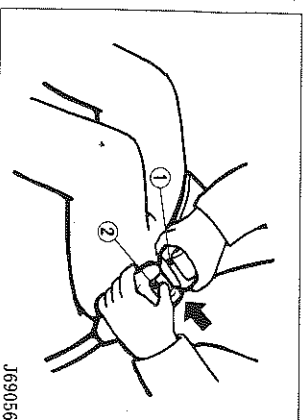
2. 腰部のベルトが必ず腰骨の位置にかかるようにし、肩ベルトを少し引いて腰部のベルトにゆるみがないようにします。



外し方

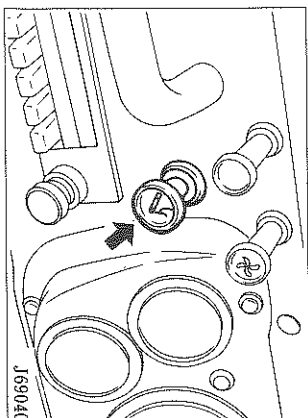
バックルのボタン②を押すとベルトが外れます。

ベルトは自動的に巻き取られますのでブレード①を持って、ゆっくり戻してください。



- シートベルトを着けたとき、肩ベルトが首、あご、顔などに当たるような小さなお子さまや乳児はシートベルトを直接使用せず、別売のチャイルドシート又はジュニアシートを装着してください。
- 妊娠中の女性や疾患がある方は、万一のとき、腹部などに強い力をうけるおそれがありますので、医師に相談のうえご使用ください。
- ベルトは1人用です。2人以上で使用しないでください。
- シートベルトにはほつれや、切り傷ができたり、金具部などが正常に動けなくなったりしたときは、シートベルトを交換してください。
- 万一、事故にあって、シートベルトに強い衝撃を受けた場合は外観に異常がなくても必ず交換してください。軽い事故の場合は三菱販売会社で点検を受けてください。
- ベルトは清潔で乾いた状態にしておいてください。
- ベルトが汚れたときは、「内装品のお手入れ」の項を参照して適切な方法で汚れを落してください。

シガレットライターの使い方



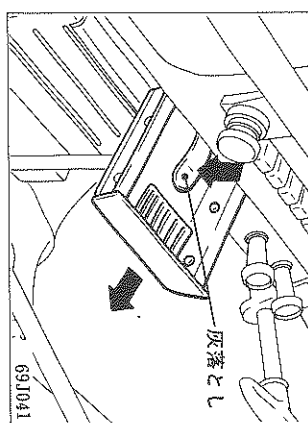
エンジン スイッチが「ON」又は「ACC」のとき押し込んで、しばらくすると「カチッ」と音がして戻ります。
引き抜いてご使用ください。

• 他の車のシガレット ライターを差し込んで使用しないでください。

ご注意

- 押し込んでから30秒以上たっても戻らないときは、異常ですのでシガレット ライターを引き戻して三菱販売会社で点検を受けてください。
- 押し込んだままにしておくとき配線が焼け火災を招くことがあります。
- シガレット ライターを他の電気製品の電源として使用しないでください。
- 電気製品の電源として使用しますと、車の配線、及び電気製品を焼損することがあります。

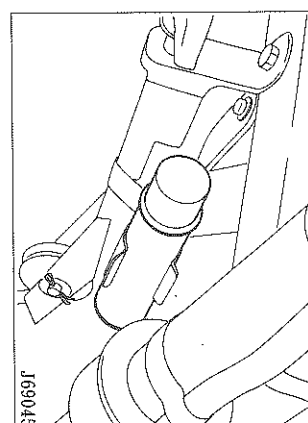
灰皿の使い方



取り外すときは灰落としを押し下げ引いてください。

- 使用した後は必ず閉めてください。開けたままにしておくとき火が他の物に燃え移るおそれがあります。
- タバコ、マッチの火は確実に消してください。
- 灰皿には吸い殻をためすぎたり、紙くずなど燃えやすいものを入れないでください。
- 火災の原因となります。

保安炎筒の使い方



踏切などで車が動かなくなったりしたときなど緊急のときに保安炎筒を使用してください。使用方法は保安炎筒に書いてありますので、事前によく読んで万々に備えてください。

発炎時間：約5分間

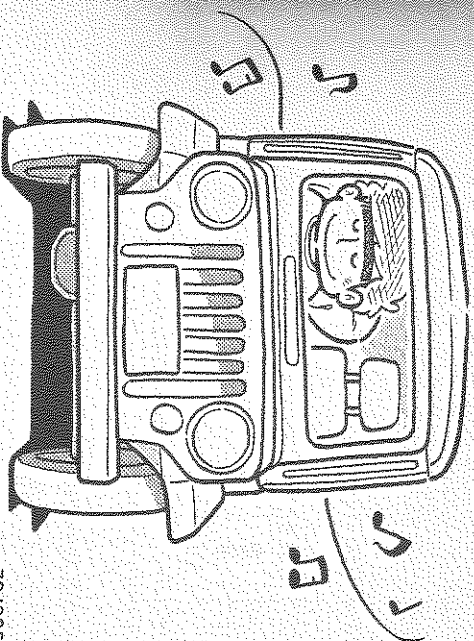
- 有効期間は本体に書いてありますので期限が切れたら必ず新品と交換してください。
- 使用したときは、三菱販売会社で必ずお求めください。

ご注意

- ガソリンなど燃えやすいものの近くで危険ですので使用しないでください。
- また、人の顔や体に向けて使用しないでください。
- お子さまには保安炎筒をいじらせな
- ください。
- トンネル内では使用しないでください。
- 煙により視界が悪くなり危険です。
- トンネル内ではハザード ランプを
- 使用して他の車に知らせてください。

ラジオと空調 デジタルの使い方

- ・ラジオの使い方.....33
- ・ヒータ及びベンチレーション(換気)の使い方.....34



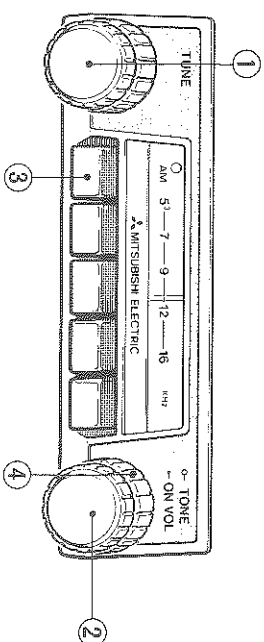
70J095

簡単な操作で快適な室内を...

ラジオの使い方

AMラジオ
エンジン スイッチが「ON」又は
「ACC」のときに使用できます。

- ・エンジンを止めて聞くときは必ずエンジン スイッチを「ACC」にしてください。
- ・アンテナを伸ばしてください。屋根の低い所へ入るときは必ずアンテナを格納してください。



J69001

① 選局ツマミ
ツマミを回すと受信する周波数が
変わります。

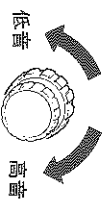
② 電源スイッチ・音量調整ツマミ



M70002

③ 選局ボタン
ボタンを押すと前もってセットした
放送局の周波数を受信します。

④ 音質調整ツマミ



M70012

選局ボタンのセットのしかた

1. セットしようと思う③を1つ引き
出します。



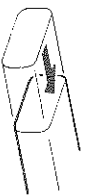
70T037

2. ①を回して聞きたい放送局の周波数
に合わせます。



70T038

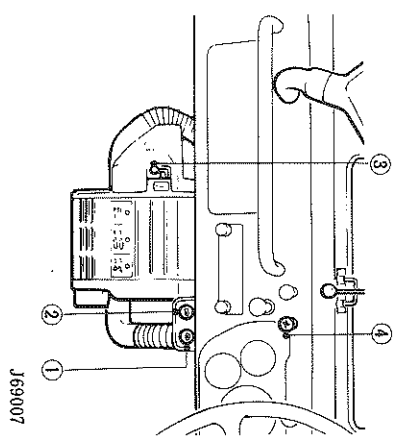
3. 強く押し込めばセット完了です。



70T039

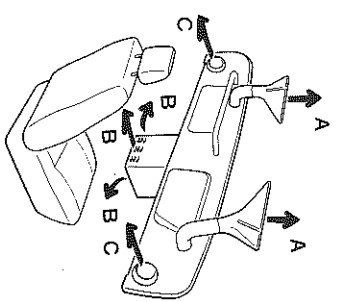
ヒータ及びベンチレーション(換気)の使い方

コントロール ノズ



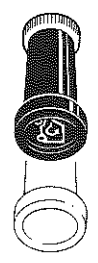
J69007

① 吹き出し口切り換えノズ
ノズを操作すると風の吹き出し口が切り換わります。



70J090

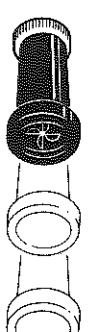
② 内外気切り換えノズ
ノズを操作すると空気の取り入れ口が換わります。



外の空気が入ります
室内の空気が循環します

J70076

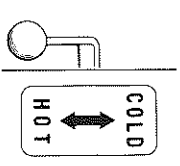
④ ファン スイッチ
エンジン スイッチが「ON」又は「ACC」のときスイッチを操作すると送風量が2段階に切り換わります。



OFF 1段(強) 2段(弱)

③ ヒータ コック

ヒータを使用しないとき



70J079

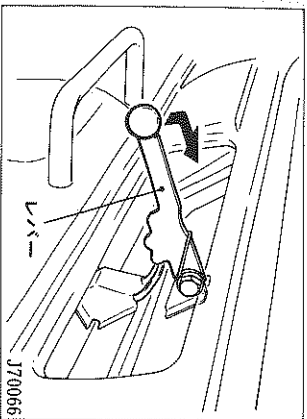
ヒータを使用するとき

エンジン冷却水の温度が低いとき
操作してもヒータとしては使用できません。

ノズ 位置	吹き出し口		
	A	B	C
J69006	●	△	●
J58019	△	●	△

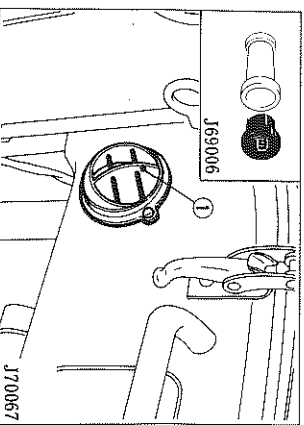
・△印の吹き出し口からは、少し吹き出します。

セント ペンチレータ



レバーを押し上げると開きます。
運転中の外の空気の送風量を3段階に調整できます。

サイド ヒータ



吹き出し口切り換えノブを引いた状態で
温風又は涼しい風が送風されます。
グリル①を動かしてお好みの風向きに
調整してください。

ご注意

・運転しているときに操作することは危険
ですから運転する前に操作してください。

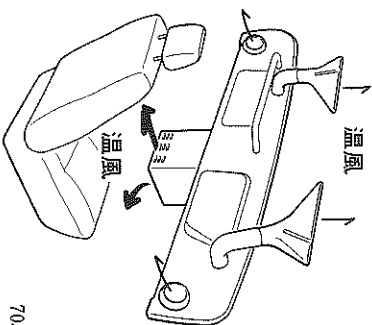
ヒータ及びベンチレーション(換気)の使い方

各条件に応じてノブ及びレバー操作を
組み合わせ、ご使用ください。

→ 風量多
→ 風量小

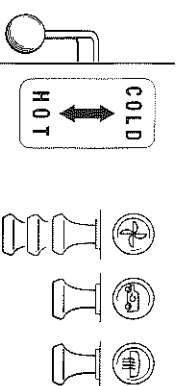
C69051

暖房したいとき



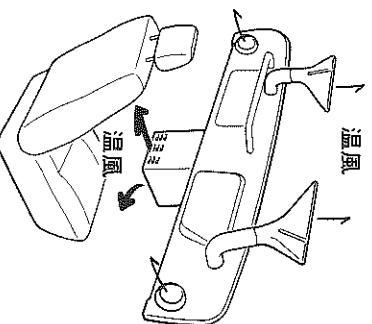
70J093

ベンチレータは…閉



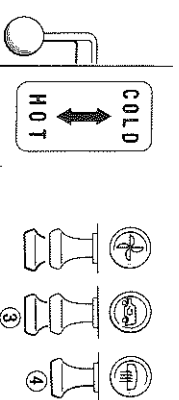
70J079

早く暖房したいとき



70J093

ベンチレータは…閉



70J086

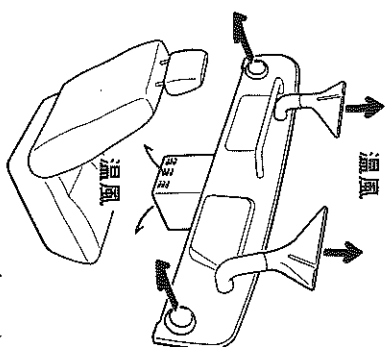
70J088

②のノブでお好みの送風量に合わせて
ください。

ウインドウ ガラスがくもってくる
ようなときは、③ノブを押し込んで
④を引き出してください。

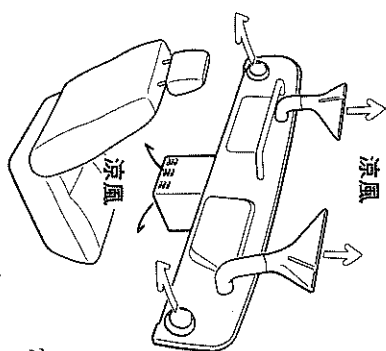
ヒータ及びベンチレーション(換気)の使い方

冬期のくもり、霜を取りたいとき



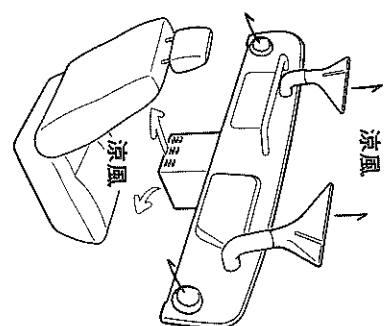
70J091

夏期のくもりを取りたいとき



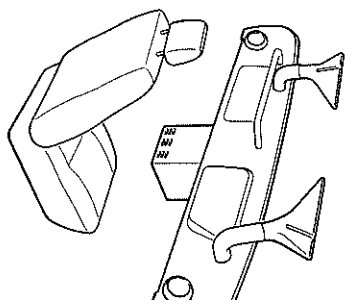
70J092

換気をしたいとき(強制換気)

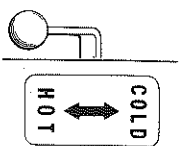


70J094

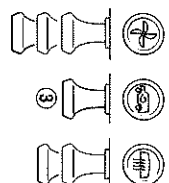
使用しないとき



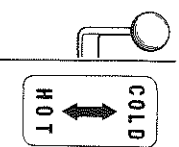
ベンチ



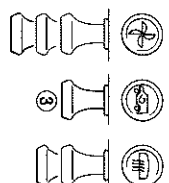
70J079



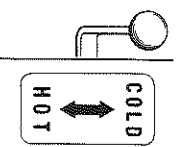
70J085



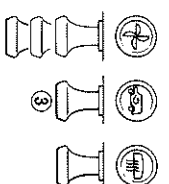
70J077



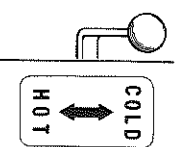
70J085



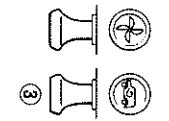
70J077



70J086



70J077



③のノブは押し込んだまま使用してください。

サイドヒータからも温風が吹き出します。グリルを動かしてお好みの風向きに合わせてください。

③のノブは押し込んだまま使用してください。

サイドヒータからも涼風が吹き出します。グリルを動かしてお好みの風向きに合わせてください。

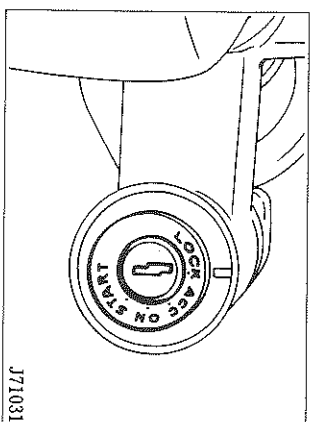
③のノブは押し込んだまま使用してください。

③を引き出すといやなにおいの侵入を防ぎます。

① エンジンのかけ方と 運転装置の使い方

エンジン スイッチの使い方.....	ページ 37
エンジンのかけ方.....	38
暖機運転のしかた.....	39
P.T.O(作業機)の使い方.....	39
エンジンがかりにくいときの処置.....	40
エンジンの止め方.....	40
シフトレバーの操作.....	41
フリー ホイール ハブの操作.....	43
駐車ブレーキの操作.....	43

エンジン スイッチの使い方



J71031

LOCK...キーはこの位置で抜き差しできます。

キーを抜くとハンドルがロックされます。

• キーが回らないときは、ハンドルを軽く左右に動かしながら行なってください。

• 長い間エンジンを止めるときはこの位置にしてください。

A C C...エンジンを止めたままで次の装置が働きます。

- ラジオ
- シガレット ライタ
- フアン モータ

• ラジオを長い間聞いたりフアン スイッチを操作したままにしたりしないでください。

バッテリー上がりの原因となります。

O N...エンジン運転中の位置で、すべての電気系統が働きます。

快適なドライブはスタートから...

エンジン スイッチの 使い方

- 寒冷時、エンジンをかけるときは
グロー プラグを予熱する
位置です。
- エンジンを止めたままで「ON」に
しておかないでください。
- バッテリー上がりの原因になります。

START...エンジンをかける位置です。

エンジンが始動したらすぐに
キーから手を離してください。
自動的に「ON」の位置に戻り
ます。

- エンジンがかかっているときは、
キーを「START」に回さないで
ください。
- スターチング モーターが破損すること
があります。

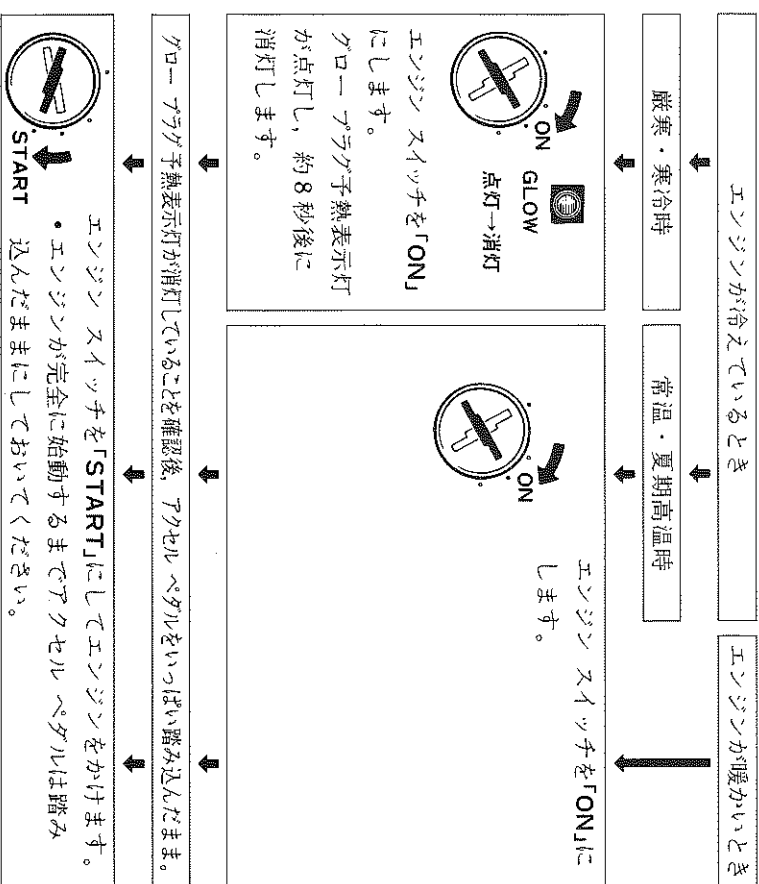
ご注意

- 運転しているときはエンジン スイッチを
絶対に切らないでください。
- プレーキ倍力装置が働かなくなり
ブレーキのききが悪くなります。
- 誤ってキーを抜くと、ハンドルが回ら
なくなり危険です。

エンジンのかけ方

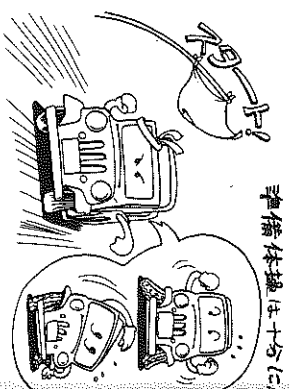
駐車ブレーキ レバーを確実に引き
トランスミッション シフト レバーを
「N」の位置にして、クラッチ ペダルを
いっぱい踏み込み、次の要領でエンジン
をかけてください。

- エンジンをかけるときは、消費電力の
大きなヘッド ランプを使用しますと、
バッテリーの容量が低下しエンジンが
かかりにくくなる場合があります。
必ず、ヘッド ランプのスイッチを
「OFF」にしてください。



ご注意

- エンジンをかけるときは必ず駐車
ブレーキ レバーを確実に引いてから
行なってください。
- トランスミッション シフト レバーの
位置が「N」以外でクラッチを踏まず
エンジンを「START」に回すと車が暴
動し出し危険です。



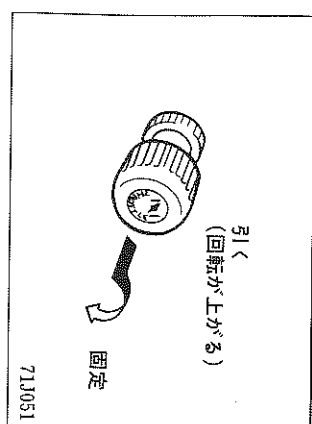
暖機運転のしかた

エンジンが冷えているときは、暖機運転をおすすめします。水温計の針が動き始めたら走行OKです。ただし、無理な運転はしないでください。

ご注意

- 暖機運転中又はエンジンがかかっているときは、車から離れないでください。
 - 周囲がかまれた場所では、排気ガスが充満して危険です。
- 風通しの良い所で暖機運転を行なってください。

スロットル ノブ



次の手順で操作してください。

1. エンジンをかけた後、エンジンがなめらかな回転を保つ範囲まで、スロットル ノブを引き右に回して固定します。

2. エンジンが暖まったならノブを完全に戻してください。

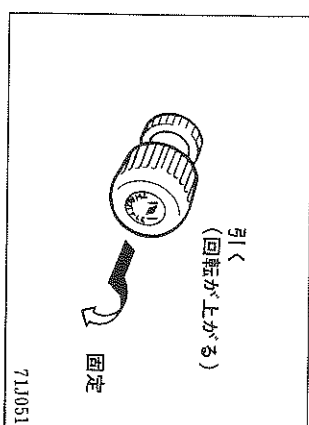
ご注意

- 高い回転で暖機運転しますとエンジンが暖まるとともに急に回転が上がる可能性があります。エンジンの回転を上げたまま運転したり放置すると燃料の消費だけでなくエンジンの調子も悪くなります。

P.T.O(作業機)の使い方

作業機を取り付けて運転を行うときは、スロットル ノブを使用してください。

スロットル ノブ



ノブを引くとエンジン回転が上がります。

このノブは、通常の暖機運転時にも使用します。

ご注意

- 運転しているときはスロットル ノブを操作してスピードを加減するようなことは、危険ですので絶対に行わないでください。

エンジンがかかりにくいときの処置

寒冷時及び厳寒時のとき

エンジンをかけ損じたときは、一度エンジン スイッチを「OFF」にしてから「ON」に入れ直し、グロープラグ予熱表示灯が点灯後、消灯したことを確かめて、アクセルペダルをいっぱい踏み込んでエンジンをかけ直してください。10秒以内でエンジンがかかり始めるような音(クークー音からブルブル音)が聞こえてきたら、そのまま30秒を限度にエンジンがかかるまでスタータを回し続けてください。10秒以内でエンジンがかかり始めるような音が聞こえない場合、又は30秒経過してもエンジンがかからない場合は、一度エンジン スイッチを「OFF」にして少し休んで(約1分間)からもう一度やり直してください。

- エンジンのかかりのよしあしは、エンジン オイルの選定にも影響します。ので、必ず三菱純正エンジン オイルをご使用ください。
- 使用するエンジン オイルは「給油脂一覧表」の項を参照してください。

車を長い間使用しなかったとき

燃料系統にエアが入り、エンジンがかからなくなることがあります。数回スタータを回してもエンジンがかからないときは、燃料系統のエア抜きを行なってください。燃料系統のエア抜きについては、別冊の「整備手帳」に記載されていますのでお読みください。

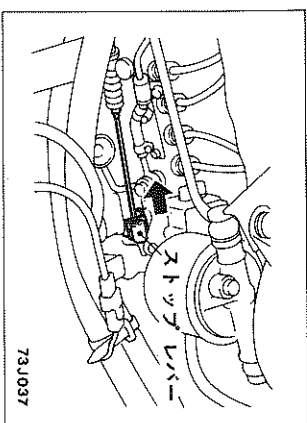
ご注意

- 押し上げ又は、けん引によるエンジンのかけ方は危険ですので行わないでください。

エンジンの止め方

エンジン スイッチを「ACC」の位置にしてもエンジンが止まらないときは、次の手順で止めてください。

1. エンジン フードを開け、インジェクション ポンプのストツプ レバーを矢印の方向に引っばい引いて、エンジンを止めます。



2. エンジンが完全に止まったらストツプ レバーを元に戻してください。

エンジンが止まらないときは、

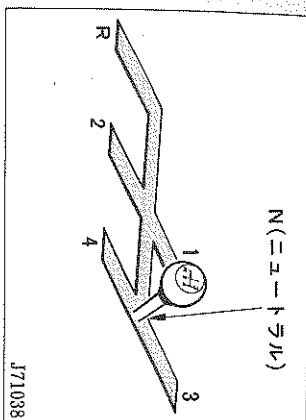
ストツプ ケーブルの故障ですので三菱販売会社で点検を受けてください。

ご注意

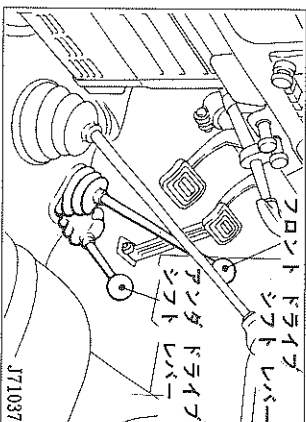
- 万一、エンジンが逆回転したときは、すぐにストツプ レバーを矢印の方向に引いてエンジンを止めてください。逆回転したときは、エンジン音が変化し、排気煙がエンジン ルーム付近から出てきます。

シフトレバーの操作

トランスミッション シフト レバー



トランスファ コントロール レバー



「R」に入れるときは車を完全に停止させてから入れてください。

• ギヤが入りにくいときは、クラッチペダルを踏み直すと楽に入ります。

フロント ドライブ シフト レバーは、2 輪駆動と 4 輪駆動の切り換えを行い、アング ドライブ シフト レバーは低速、ニュートラル、通常走行の切り換えを行います。

• フロント ドライブ シフト レバーが「4」の位置のとき 4 輪駆動表示灯が点きます。
• 4 輪駆動で運転するときには「4 輪駆動の上手な使い方」の項をご参照ください。

レバーの操作位置

フロント ドライブ シフト レバーとアング ドライブ シフト レバーを運転条件に合わせて次のように組み合わせてご使用ください。

2-H 2 輪駆動

後 2 輪駆動で一般道路及び高速道路を運転するときの位置です。

N ニュートラル

P.T.O.(作業機)を取り付けたときに使用する位置です。
この位置では車を運転することができません。

4-H 4 輪駆動(通常走行)

4 輪駆動で積雪路、砂地、悪路など駆動力を必要とし、通常のスピードで運転するときの位置です。

4-L 4 輪駆動(低速走行)

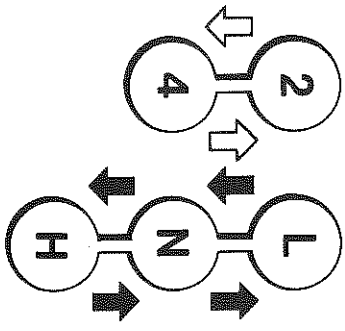
4 輪駆動で急登坂、急降坂、及びぬかるみなどの悪路を運転するときなど特に大きな駆動力を必要とするときの位置です。
この位置で駆動力(けん引力)が最大になります。

ご注意

• 乾いた舗装道路は 2 輪駆動で走行することをお勧めします。特に、乾いた高速道路は絶対に 4 輪駆動で走行しないでください。
乾いた舗装道路を 4 輪駆動で走行すると燃料の消費量が多くなったり、騒音、タイヤの早期摩耗を発生することがあります。また、ディアフレクショナル油温が高くなり、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

シフトレバーの操作

レバー操作のしかた



J71040

◻: 運転しているときでもクラッチペダルを踏まずに操作することができます。

◀: 車が止まった状態でクラッチペダルを踏み込んで操作します。

・フロンツ ドライヴ シフト

レバーが「2」(2輪駆動)のときはアンダードライヴシフトレバーを「L」(低速)に入れることはできません。

トランスファコントロールレバーは確実に各変速位置へ入れてください。フロンツドライヴシフトレバーのレバー操作が重いときは、アクセルペダルを軽く踏み込むと同時に操作すると容易に行えます。

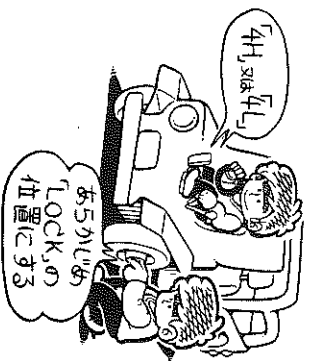
レバー操作の注意事項

フリー ホイール ハブ付き車で4輪駆動するときには、必ず次のことをお守りください。

- ・フリー ホイール ハブをあらかじめ左右輪とも「LOCK」の位置にしておいてください。
- 「フリー ホイール ハブの操作」の項をご参照ください。

フリー ホイール ハブ付き車

レバーを「2H」から「4H」、「4H」から「2H」に入れるときはフリーホイールハブの状態(LOCK又はFREE)により運転要領が異なりますので、「フリーホイールハブの操作」の項をご参照ください。



J7104048

変速

エンジンの回転とスピードをマッチさせた変速を行うため、各変速位置は下表のスピード範囲内で使用してください。

トランスミッション シフト レバー位置	単位=km/h	
	H	L
1 速	0 ~ 25	0 ~ 10
2 速	25 ~ 50	0 ~ 20
3 速	30 ~ 65	0 ~ 25
4 速	40 ~ 90	15 ~ 45

各変速位置の最高速度

各変速位置の最高速度以下で運転してください。

トランスファ コントロール レバー位置		単位=km/h	
H	L	H	L
1 速	33	13	23
2 速	60	31	42
3 速	79	42	13
4 速	110		
後退	34		

フリー ホイール ハブの操作

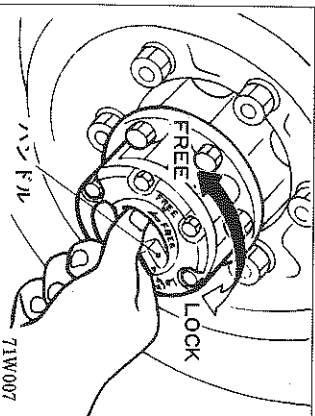
フリー ホイール ハブは後2輪で駆動するとき、前輪の駆動装置(プロペラシャフトなど)を切り離して駆動装置の回転を止め、騒音や摩耗を減らし、車輪のみを自由に回転させて経済的に運転するための装置です。

フリー ホイール ハブは前輪に装着されています。

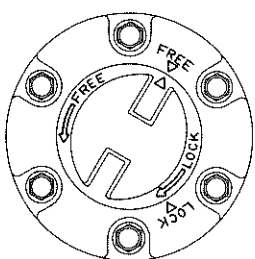


71J049

フリー ホイール ハブ [メーカ オプション]



71W007



71S006

手でハンドルを回すことにより、切り離し(FREE)又は結合(LOCK)の切り換えができます。

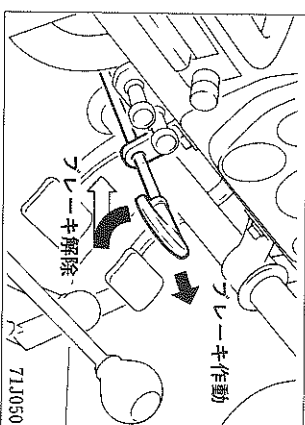
FREE……後2輪で駆動して運転するときの位置です。

LOCK……4輪で駆動して運転するときの位置です。

ご注意

- ・4輪駆動で運転するときはフリーホイールハブを必ず左右輪とも「LOCK」の位置にしてください。
- ・「FREE」の位置で4輪駆動走行は絶対行わないでください。
- ・片車輪のみ切り換えて運転するとフリーホイールハブとしての役目を発揮できませんので、左右輪とも必ず「LOCK」又は「FREE」の同じ位置になっていることを確かめてください。
- ・長い下り坂等でブレーキを多く使用した後、急に切り換えるときは、フリーホイールハブを冷やしてから操作してください。
- ・フリーホイールハブが高温となっておりますので、やけどをするおそれがあります。

駐車ブレーキの操作



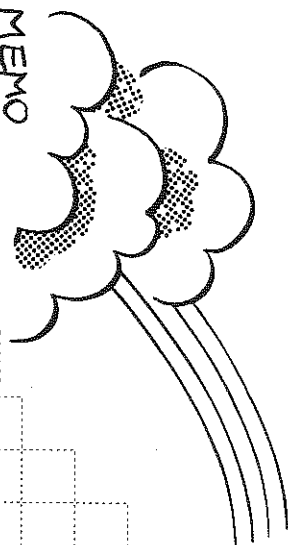
71J050

駐車するときにレバーをいっぱい引いてください。戻すときは、レバーを左に回しながら押し込みます。

レバーを引いたまま運転するとブレーキが過熱し、ブレーキのききが悪くなるとともにブレーキの故障の原因になります。

MEMO

C66008



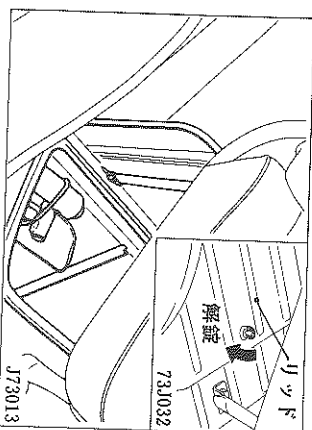
タイヤの取り扱いと車のお手入れ

搭載工具	ページ
・ジャッキ アツクのしかた	45
・タイヤのローテーション	46
・スベア タイヤの取り扱い	47
・タイヤ交換のしかた	48
・タイヤとホイールのサイズ	48
・タイヤ チェーンのかけ方	50
・車のお手入れ	50
・寒冷時の保守	52
	53

タイヤは車の大切な足...

搭載 工 具

工具, ジャッキ, ジャッキ ハンドル

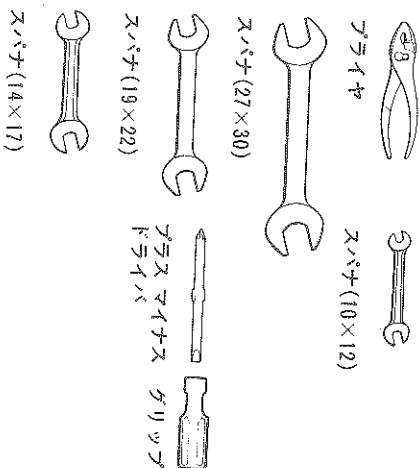
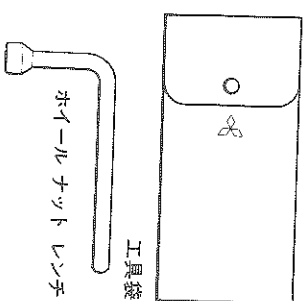


- ・リット裏側には取扱説明書及び整備手帳が収納できます。
- ・施錠するときには、リットを軽く押し付けてください。

ご注意

・ジャッキ及び搭載工具を使用するときは、交通の妨げにならないよう安全な場所で行なってください。

運転席シート下の工具箱に格納してあります。

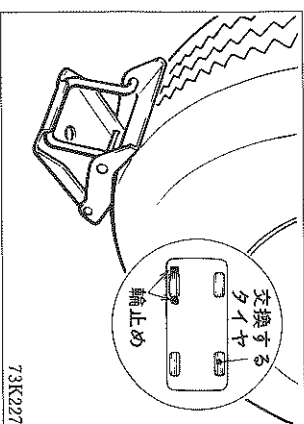


ジャッキ アップのしかた

上げるときは

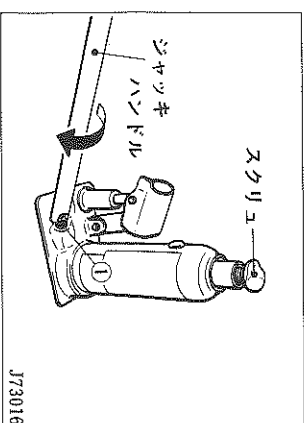
1. 平らな硬い場所でエンジンを止め、
駐車ブレーキを十分にかけ、
ジャッキ アップするタイヤと
対角線のタイヤの前後に輪止めを
かけます。

- 輪止めは、三菱販売会社でお求め
ください。

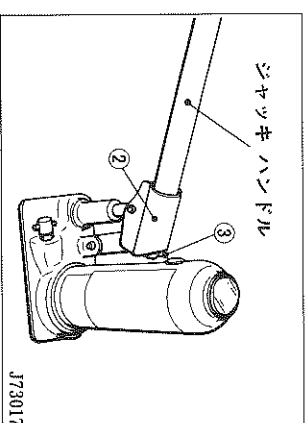


2. ジャッキとジャッキ ハンドルを
取り出します。
「搭載工具」の項をご参照ください。

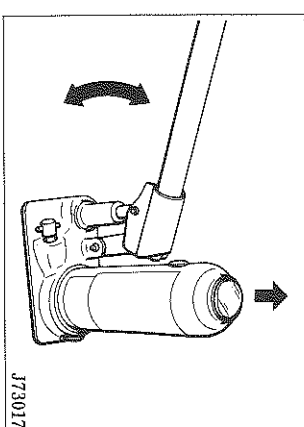
3. バルブ①をジャッキ ハンドルで
右に止まるまで回し、バルブが
閉まっていることを確認します。



4. ジャッキ ハンドルをフランク
②へ差し込み、ハンドル先端の
切りかき部③で固定します。



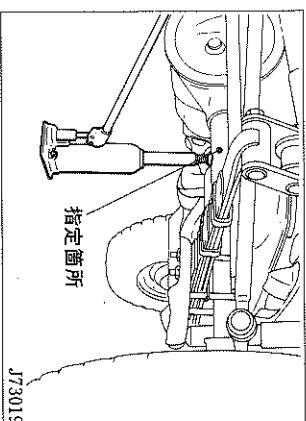
5. ジャッキ ハンドルを上下に動かし
て、ジャッキを指定箇所当たる
直前まで伸ばします。



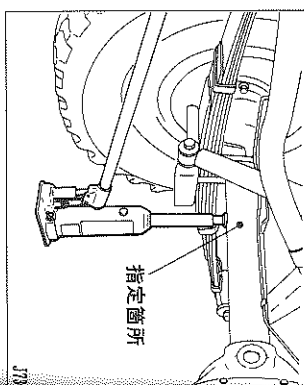
6. ジャッキをジャッキ ハンドルで
押しして指定箇所にセットします。

- ジャッキをさらに伸ばしたい
ときは、セットする前に支柱
最上部のスクリュを左に回して
ください。

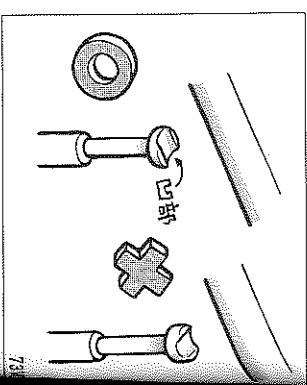
フロント



リヤ



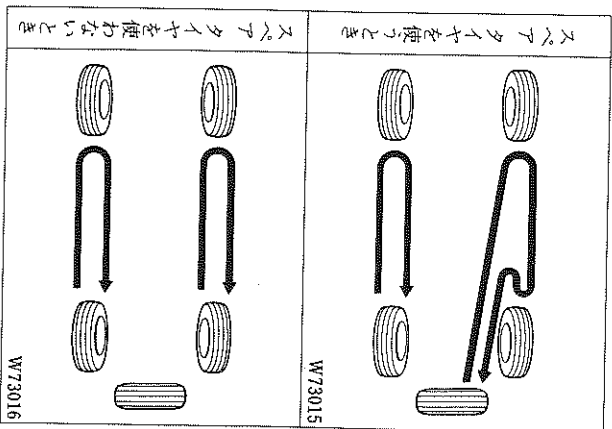
- ジャッキ アップするときは、
ジャッキ先端の凹部が指定箇所
合うように図のようにジャッキ
先端を回しておきます。



タイヤのローテーション

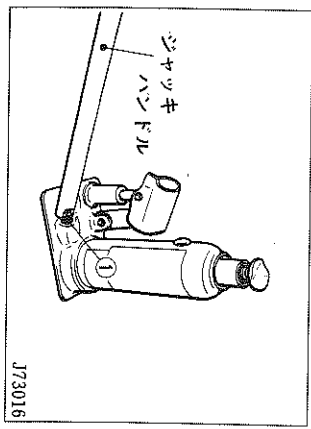
タイヤの摩耗を均一にして寿命を延ばすため、タイヤの位置交換を行なってください。

交換時期：10 000km 走行ごと

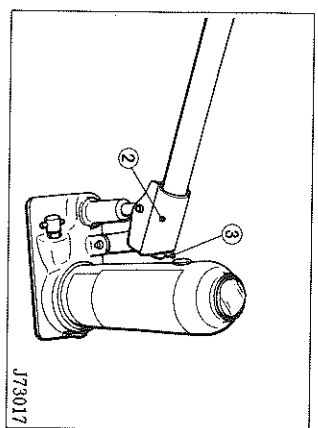


降ろすときは

1. ジャッキ ハンドル先端の切り欠き部をバルブ①にかけます。

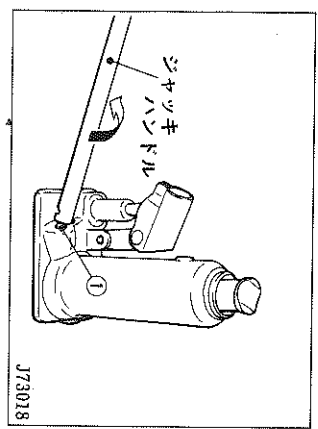


3. ジャッキを取り出します。
・手で取り出しにくいときは、ジャッキ ハンドルをフランクット②に差し込み、先端の切り欠き部③で固定し、ジャッキ ハンドルを引いてジャッキを取り出します。

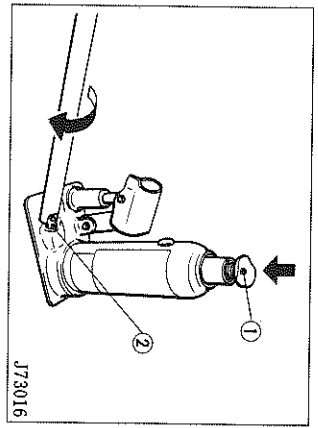


2. ジャッキ ハンドルをゆっくり左へ回して、バルブ①をゆるめます。

・バルブ①は2回転以上ゆるめないでください。



4. 支柱最上部のスクリュ①を右にいったばい回し、次に支柱全体を上から押して縮めます。
・支柱を縮めた後、バルブ②を右にいったばい回しておいてください。

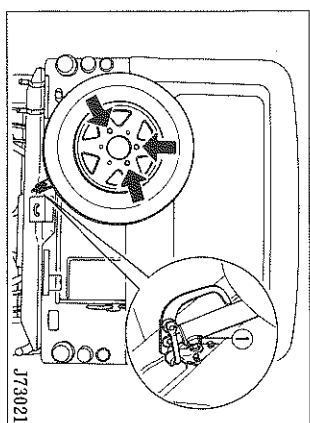


5. ジャッキとジャッキ ハンドルを格納します。

ご注意

- ・この車には車載ジャッキ以外のジャッキを使わないでください。
- ・ジャッキはタイヤ交換とタイヤチェーンの取り付け以外には使わないでください。
- ・ジャッキ アップするときには、エンジン止め、駐車ブレーキをいったばいに引き、さらに車が動かないよう輪止めをしてください。
- ・ジャッキを使うとき、人は車内に残らず車から降りてください。
- ・ジャッキ アップするときは、タイヤが地面から離れたところでやめてください。これ以上に車を高くジャッキ アップすると危険です。
- ・万一、ジャッキが外れると大変危険です。ジャッキ アップしたら、そのまま放置したり車の下にもぐったり、車をゆすったりすることは絶対に行わないでください。

スベアタイヤの取り扱い



ホイールナットをホイールナットレンチで外した後、スベアタイヤを取り外します。

スベアタイヤを取り付けてゆすってみたときがなついている場合にはスベアタイヤハンガのストッパホルト①を長くして調整します。

- 調整後もがたがあるときは、タイヤを車内に保管し、三菱販売会社で修理を受けてください。

- スベアタイヤはいつも取り付けたまままで運転してください。

タイヤ交換した後はベンクしたタイヤをスベアタイヤの取り付け位置に戻し、ホイールナットレンチでしっかり固定してください。

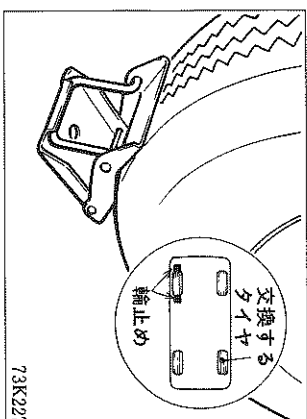
タイヤ交換のしかた

取り外し方

1. 工具、ジャッキ、スベアタイヤを取り出します。
「搭載工具」、「スベアタイヤの取り扱い」の項をご参照ください。

2. 駐車ブレーキレバーを十分に引き、交換するタイヤと対角線(例：右後輪を交換する場合は左前輪)のタイヤの前後に輪止めをかけます。

- 輪止めは、三菱販売会社でお求めください。



3. 交換するタイヤに近いジャッキポイントにジャッキをかけます。
「ジャッキアップのしかた」の項をご参照ください。

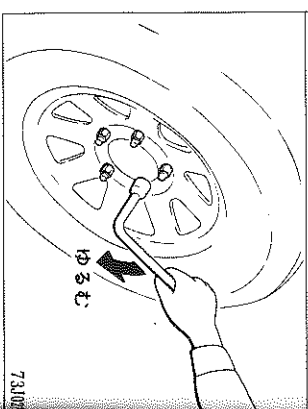
4. ホイールナットレンチでホイールナットを少し(約1回転)ゆるめます。

- ホイールナットは運転中のゆるみを防ぐため、左側ホイールには左ねじを、右側ホイールには右ねじを使用しています。
ゆるめるときは右側は左に、左側は右に回してください。

- 左ねじの見分け方は、ホイールナット六角部に溝が切つてあります。



J72015

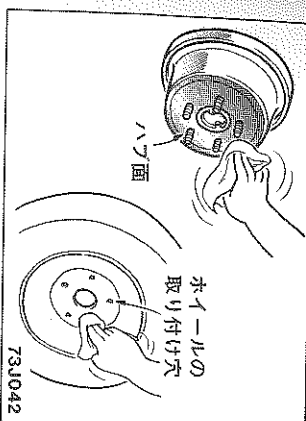


5. タイヤが地面から少し浮くまで静かにジャッキアップします。

6. ホイールナットを外し、タイヤを交換します。

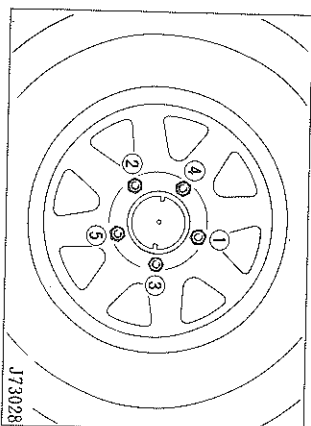
取り付け方

1. ハブ面及びホイールの取り付け穴の泥などの汚れをきれいに取り除き、スベア タイヤを取り付けます。



3. タイヤが地面に接するまでジャッキを下げ、ホイールナットを対角線の順序で2～3回に分けて、徐々に締め付けます。
最後の締め付けは確実にこなしてください。

締め付けトルク 10～12kgm
(車載のホイールナットレンチの先端で49～59kgの力)



4. ジャッキを外して工具、ジャッキ、交換したタイヤを所定の位置に片付けます。

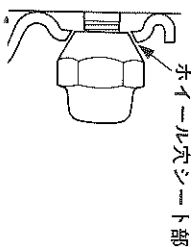
5. タイヤの空気圧を規定の空気圧に調整します。

6. 交換したタイヤは早めに修理してください。

・パンクの修理と同時にタイヤのバランス修正も行なってください。

ご注意

- ・万一、パンクにより路上でタイヤを交換するときは、交通のじやまにならず、安全に作業できる平らな硬いところを選びます。
- ・また、ハザード(非常点滅)灯や停止表示器で後続車に注意を促し、同乗者は降りてください。
- ・ジャッキアップ中は危険ですからエンジンがかかったり、車の下に落ち込んだり、のぞき込まないようにしてください。
- ・取り出したスベア タイヤはジャッキが外れたときの危険防止のため、ジャッキ近くの車体の下に置きます。
- ・車体の端部などで手にけがをしないように作業を行なってください。
- ・ホイールナットを締め付けるときは、ホイールナットレンチを足で踏んだり、バイアなどを使用して必要以上に締め付けしないでください。
- ・ホイールナットは、車両の右側のもは右ねじ、左側のもは左ねじになっていきますので、ゆるめるとき、締め付けるときには、その方向に注意してください。
- ・ボルト、ホイールナットには絶対に油を塗らないでください。
- ゆるみの原因になります。



73T022

タイヤとホイールのサイズ

次のサイズのタイヤとホイールが
あなたの車に使用できます。

- 種類の異なったタイヤを個々に使用
することは絶対に避けてください。
- 表中以外のサイズのものは、
使用しないでください。
- タイヤ空気圧は「タイヤ空気圧」の項
をご参照ください。

- タイヤのトレッドパターンはリフト
又はリフトラグ タイプをご使用
ください。

トレッドパターン	サイズ
	215R15-6PRLT
	15×5½K(17)
タイヤ	
ホイール	

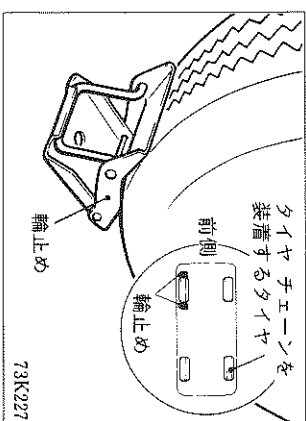
()内は、ホイールとリムの
オフセット量を示します。

タイヤチェーンのかけ方

タイヤチェーンは次の手順で後輪に
装着してください。

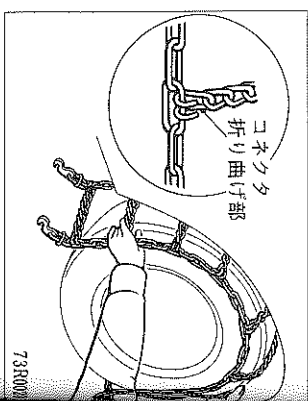
1. 駐車ブレーキを十分にかけ、タイヤ
チェーンを装着するタイヤと対角線
(例：右後輪の場合は左前輪)の
タイヤの前後に輪止めをかけます。

- 輪止めは、三菱販売会社でお求め
ください。



3. タイヤチェーンのコネクタ部の
折り曲げ部が外側になるようにして
タイヤチェーンをかぶせます。

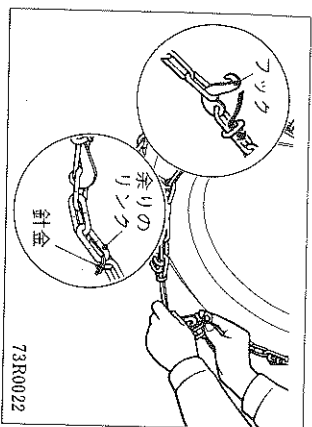
- コネクタ部を逆にするとうタイヤの
サイドウォール(側面)を傷つけ
ます。



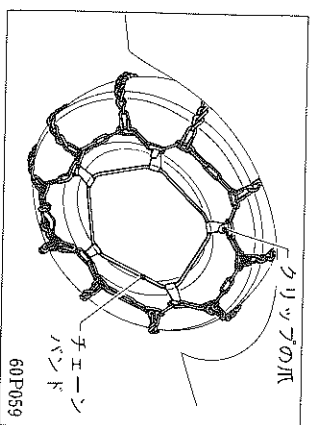
2. 車をジャッキアップします。

- ジャッキアップの方法は「ジャッキ
アップのしかた」の項をご参照
ください。

4. タイヤチェーンの両端をいっばい
引っ張って、ゆるみがないように
内側のフック、外側のフックの順
で連結します。
余ったリンクはボデーなどに当
たらないように針金などで確実に固
めてください。



5. チェーンバンドのクリツアの爪を外向きにして等間隔に取り付けます。



6. しばらく走行(約500m)して、ゆるみがないか点検します。ゆるんでいるときは、ワックを奥のリンクにかけ直してください。

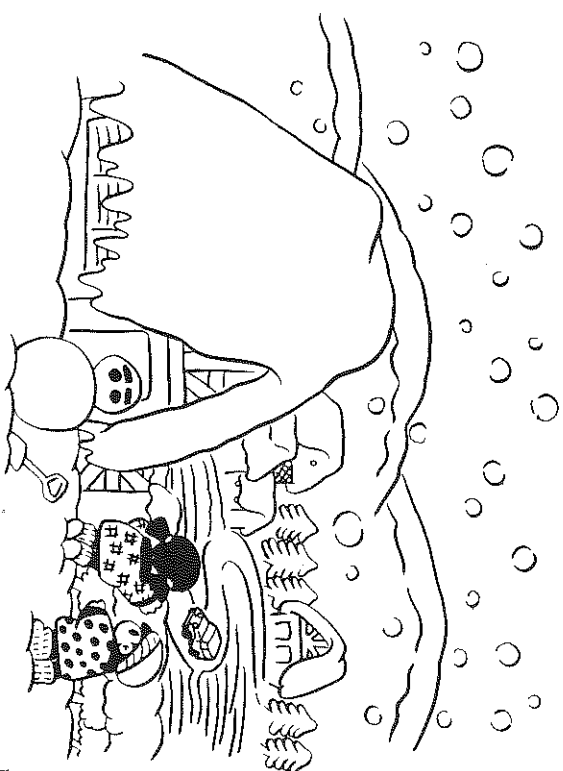
ご注意

- タイヤ チェーンは車のタイヤ サイズに合ったものを使用してください。
- 前輪には、タイヤ チェーンを絶対に取り付けないでください。
- 路上でタイヤ チェーンをかけるときは、交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな硬いところを選びます。また、ハザード(非常点滅)灯や停止表示器で後続車に注意を促し、同乗者は安全な場所に待機させてください。
- ジャッキ アップ中は危険ですからエンジンをかけたり、車の下に降り込んだり、のぞき込まないでください。
- 車体の端部などで手にけがをしないように作業を行なってください。
- 雪道や凍結路では30km/h以下で走行してください。
- 走行中異常がする場合は、ただちに車を止め、タイヤ チェーンの装着状態を確認してください。
- 乾燥した舗装道路でタイヤ チェーンをつけたまま走行するとタイヤ チェーンの寿命が短くなりますので避けてください。

タイヤ チェーンとタイヤの組み合わせ

タイヤ サイズ	使用可能タイヤ チェーン記号(JIS表示)
215R15-6PRLT	67182

- タイヤ チェーンはチェーン記号により三菱販売会社でお求めください。



車のお手入れ

外装品のお手入れ

次のような汚れは、そのままにしておきますと、腐食、変色、しみになるおそれがありますので早めに洗車してください。

- 海水、道路凍結防止剤など
- 工場のばい煙、コーラルなど
- 鳥のふん、虫など

洗車のしかた

1. ボデー上部から水をかけながら、スポンジなどで汚れを洗い落とします。水洗いで落ちにくい汚れは、中性洗剤を使用します。
 2. ボデーの下回りを洗います。
 3. 最後にボデーに残っている水分はセーム皮か柔らかい布で、きれいにふきとります。
- 中性洗剤を使用した後はよく水洗いをして塗装面に、洗剤が残らないようにしてください。塗装面に付いたままにしておきますと、しみができることがあります。
 - 下回りを洗うときは、手にけがをしないようゴム手袋などをご使用ください。
 - 鳥のふんや、虫などの汚れのときは、ポリシグワックス(ワックス乳液)で汚れを落としてください。
 - 車内を洗車するときには、スイッチ類など電装部品に直接水をかけないでください。

ご注意

- エンジンルーム内の電気部品には、水をかけないでください。
- エンジン始動不良等の原因となります。

幌の洗いかた

1. 幌を車から取り外します。
 2. フラシヤやタワシなどで、ていねいに水洗いします。
- 水洗いでも落ちないときは洗たく粉石けん(家庭用)の0.1%水溶液(水5ℓに対し、小さじ1杯)を作り、雑きん又はモップなどで軽く洗ってください。

- 窓の部分はスポンジで洗ってください。

3. 洗剤使用後は、洗剤が幌に残らないように、水洗いを行い幌を乾かしてください。

- 洗剤は指定濃度以上では使用しないでください。
- 指定以外の洗剤(台所用合成洗剤など)や有機溶剤(アルコール、シンナーなど)は、幌に悪影響(表面のひび割れ、変色など)を及ぼしますので絶対に使用しないでください。

ワックスのかけ方

月に1〜2回又は、水をはじかなくなったときに行なってください。

柔らかい布に少量のワックスを付ボデーにまんべんなく塗ります。少々乾いてきたら柔らかい乾布でみがきましょう。

- 塗装面が体温(36℃)以上のときは直射日光を避けて行なってください。
- 塗装面の水は、完全にふき取ってください。
- コンパウンド入りのワックスは使用しないでください。

車のお手入れ

内装品のお手入れ

内装品の材質と汚れの種類に応じて清掃の方法が異なります。

方法を誤ると、変色、しみなどが発生することがありますので次の要領にしたがってお手入れをしてください。

汚れの取り方

• ほこり、手あか、タバコなどの汚れ

プラスチック・ビニールレザー・布材

1. 洗たく用合成洗剤の3%水溶液(水200ccに対し、小さじ1〜2杯)をガーゼなどの柔らかい布に含ませ、軽くふき取ります。

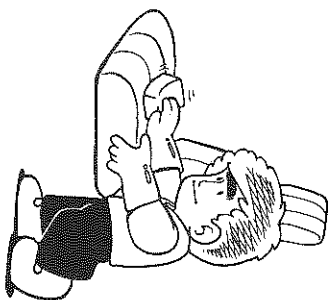
2. 真水にひたした布を固くしぼって洗剤をきれいにふき取ります。

• 洗剤は指定濃度以上では、使用しないでください。

• 乾燥させるときは直射日光を避け、風通しのよい日陰で行なってください。

• 油などの汚れ

プラスチック・布材・ビニールレザー
ガーゼにベンジンを含ませて、軽くたたくようにしてふき取ります。



J72043

寒冷時の保守

冬期前の点検

次の点検を行なってください。

• エンジンオイルの交換

外気(外の空気)の温度に応じた粘度のものを使い分けてください。

• 冷却水の濃度

不凍液の濃度を点検してください。

• ウォッシュ液の濃度

ウォッシュ液の濃度を50%以上にしてください。

• バッテリーの液量、比重

バッテリーの液量及び比重を点検し、必要ときは充電してください。

バッテリー液比重 1.280/20℃

(完全充電)

• 燃料タンクの水抜き

ドレーンプラグを外してタンク内の水分を取り除くことをおすすめします。

• エンジンのかかり具合

• スノータイヤ及びチェーンの準備
• 凍結防止用ワイパブレードの装着

運転前の点検

運行前点検時に次の点検を追加してください。

• ブレーキ ホースやフレンジ裏側の雪のかたまり

• アクセル ペダルの動き。

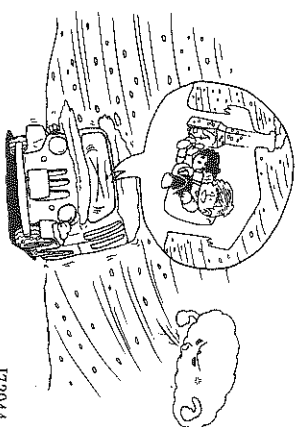
• 足回り(ドライブシャフトや

ステアリング系など)の雪のかたまり
雪のかたまりを取り除くときは

ブレーキ ホースやダストブーツなどを
傷つけないよう注意しながら
取り除いてください。

• 駐車ブレーキ レバーのきき具合
及び動き。

• ワイパブレードとガラスとの凍結。



J72044

寒冷時の保守

駐車するときの注意事項

- 屋外に長い間駐車するときには、車の前方を風下に向けて置いてください。
- 駐車ブレーキをかけておくとブレーキが凍結することがありますので駐車ブレーキをかけずに輪止めをし、トランスミッションシフトレバーは1速又は「R」にトランスフロコントロールレバーは「N」以外の位置に入れてください。
- ワイパの凍結を防止するためワイパーアームは立てておいてください。

洗車について

凍結防止剤をまいた道路を運転したときは、腐食を防止するため早めにボデーの下回りを洗ってください。洗車した後はドアの凍結を防ぐためドア回りのゴムについている水滴をよくふき取ってください。

- ドア回りのゴムにカーワックスを塗り付けるとさらに効果的です。
- 三菱販売会社には凍結防止効果の高い「ハイシリコンスプレー」を用意しておりますのでご利用ください。

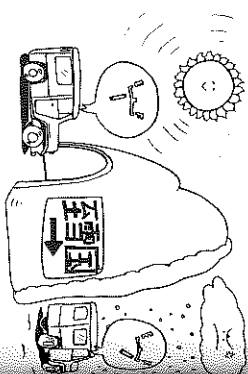
軽油について

一般の軽油は、気温が低くなると（-10℃以下）燃料パイプ中などで凍結しエンジンがかからなくなることがあります。寒冷地へ行くときは、現地に到着するまでに残量が半分以下となるようにしておき、現地に着いたらできるだけ早く現地の燃料を入れてください。なお、フェリーを利用して寒冷地へ行くときは、乗船前までに燃料を半分以下にし、現地に着いたら燃料を入れてください。

使用温度範囲	使用燃料
-5℃以上	JIS2号 軽油
-5℃~-15℃	JIS3号 軽油
-15℃~-25℃	JIS特3号 軽油

走行について

- 雪道や凍結した道路はスリップしやすくなっていますので速度はひかえめにし、スノータイヤ又はタイヤチェーンを装着してください。
- 雪道を走行するとホイールハウス内側に付着した雪が氷結し、そのままにしておくといけ積りてハンドルの切れが悪くなる場合がありますのでときどき異常がないことを確認してください。



4WD(4輪駆動) 運転の心得

・4輪駆動の上手な使い方.....	ページ 55
積雪路や凍結路を運転するときは /	55
砂地やぬかるみを運転するときは /	56
急な坂を登るときは /	56
急な坂を降りるときは /	56
急なカーブを回るときは /	57
渡河するときは /	57
オフロード走行後の点検及び処置	57

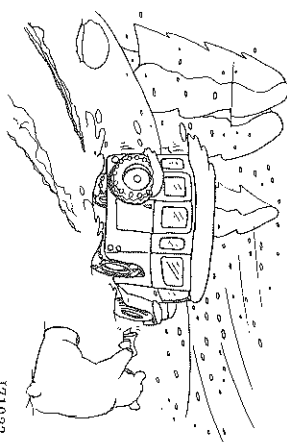
4輪駆動の上手な使い方

4輪駆動で、オフロード(積雪路や砂地、ぬかるみなどの悪路)を走行するときには、運転操作を誤らないように十分気をつけて運転してください。

・運転姿勢はやや起こしきみにして、ハンドル操作やペダル操作がしやすい位置にシートを調節し、シートベルトは必ず着用してください。

・オフロードを走行したあととは、必ず車体各部を点検し、きれいな水で念を入れて洗車してください。「車のお手入れ」の項及び「オフロード走行後の点検及び処置」の項をご参照ください。

積雪路や凍結路を運転するときは、



J71023

積雪や凍結(アイスバーン)の状態を確かめて、トランスアラコントロールレバーを4輪駆動に入れアクセルペダルを徐々に踏み込んでゆっくり発進します。

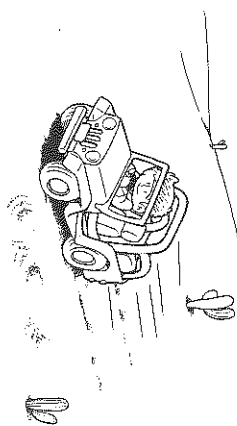
- ・タイヤチェーンやスノータイヤを使用することをおすすめします。
- ・車間距離を十分に取リ急ブレーキは絶対に避けて、エンジンブレーキを上手に使ってください。
- ・運転中の急加速、急ブレーキ、急なハンドル操作はスリップや横すべりが起こりやすく危険ですので行わないでください。

正しい使い方で能力発揮を...

4輪駆動の上手な使い方

砂地やぬかるみを

運転するときは、



J74001

砂地、ぬかるみの状態を確認してトランスファコントロールレバーを4輪低速に入れ、アクセルペダルを徐々に踏み込んで発進し、アクセルはできるだけ一定にして、低速で運転します。

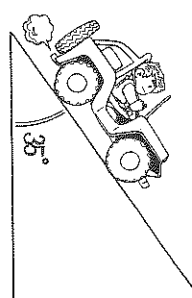
- 運転中の急加速、急ブレーキ、急なハンドル操作は、スタック(タイヤが砂や泥に埋もれて車が動かなくなる)しやすくなりますので、極力避けてください。
- 特にひどいぬかるみを走行する必要があるときはタイヤチェーンをかけると有効です。
- もし車がスタックしたときは、タイヤの下に石や木を入れて脱出するか前進、後退を繰り返し慣性を利用して脱出します。

- ぬかるみでは、路面の状況がわかりにくいいため、深みにはまり込むことがありますので、できるだけ低速で走行して、できれば車から降りて路面の状況を確認してから運転してください。

ご注意

- 海辺を走行したときは、海水の塩分により、車が錆が発生しやすくなりますので早めに洗車してください。

急な坂を登るときは、

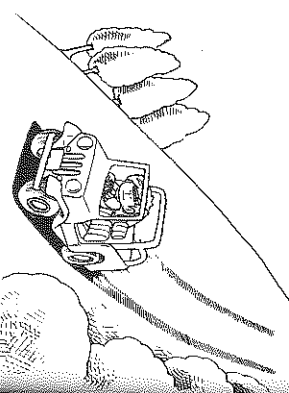


J71026

トランスファコントロールレバーを4輪低速に入れ、エンジンのトルクを有効に使います。

- 石、砂及び凸凹の少ないところを選び登り始めと、終りはなだらかな傾斜を選んで運転してください。
- 登坂能力は乾燥舗装路では35°まで登れます。
- 登る前には、車その斜面を登れるかどうか、一度自分の足で頂上まで歩いて確かめてください。
- 登り切れないと思われるときはワインチなどを使用して登坂する方が安全です。

急な坂を降りるときは、



J71026

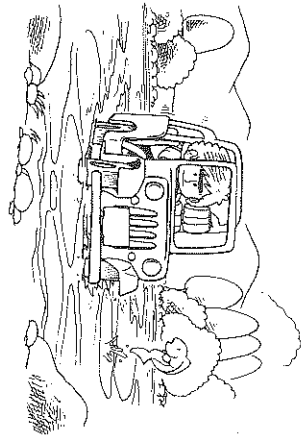
トランスファコントロールレバーを4輪低速に入れ、タイヤがロックしないようにエンジンブレーキを使いゆっくり降ります。

- 坂を降りているとき、前方に障害物を見つけて、あわててブレーキをかけることは、車のコントロール失うことがありますので、できるだけ降りる前に歩いて斜面の状態を確認してください。
- 坂を降りているときに、途中で変速ギヤを操作することは避けて、あらかじめ坂の状態に応じて変速ギヤを選んでおくことが必要です。

急なカーブを回るときはノ

4輪駆動時に、急カーブの舗装路などを走行した場合、ブレーキをかけた状態と同じような現象が発生し、運転しにくくなる場合がありますが故障ではありません。

これはタイトコーナブレーキング現象と呼ばれているもので、4つのタイヤの軌跡がそれぞれ半径の違った動きをするため、4輪駆動時に起こる4輪駆動車特有の現象です。



J71028

渡河するときにはノ

4輪駆動車といっても、水に対して万全ではありません。

電気系統などが浸水すれば、走行不能となりますので水中走行は、できるだけ避けてください。やむをえず川を渡らなければならないときは、トランスファコントロールレバーを4-Lに入れ次の要領で渡ってください。

- 水中走行する前にあらかじめ川の深さや地形を確認し、水深が50cm以下のところを選んで5km/hぐらいで波が立たないようにゆっくり走行してください。

- ひんばんに渡河する場合は、車の寿命に大きく影響しますので事前に三菱販売会社にご相談の上適切な処置及び点検整備を必ずお受けください。

- 川を渡り終ったら、ブレーキのきき具合を点検してください。

ブレーキのききが悪いときには前後の車に十分注意して、低速で走行しながら軽くブレーキペダルを踏みつけ、ブレーキのしめりを乾かしてください。

- 川を渡った後は、車体各部を念を入れて点検してください。

「オフロード走行後の点検及び処置」の項をご参照ください。

ご注意

- 水深50cm以上の場所は絶対に入らないでください。
- 水中走行しているときは、絶対変速しないでください。

オフロード走行後の

点検及び処置

オフロードを走行した後は、次の点検及び処置を必ず行なってください。

1. 石などにより損傷した個所がないか点検してください。

2. きれいな水で念を入れて洗車してください。

ブレーキは低速で走行しながら軽くブレーキペダルを踏みつけ、ブレーキのしめりを乾かしてください。

また、ブレーキのきき具合が悪いときは、ただちに三菱販売会社で点検をお受けください。

3. 渡河したときは、エンジン、トランスミッション及び

デイトアレシタルのオイルなどを点検し、オイルが白く濁っていたら必ずオイルを交換してください。

また、グリーンス給油部は古いグリーンスが排出されるまで給油し、リヤホイールベアリングのグリーンスに汚水、砂などが混入していたときには、ただちに三菱販売会社で分解整備を受けてください。

整備基準値

項 目	単 位	基 準 値
フアンベルトの たわみ(ベルト中央部)	mm	10~15 (押す力 約10kg)
タイヤ空気圧	—	空気圧はウインドシールド 右側の空気圧ラベルを お読みください。
ホイールナットの 締め付けトルク	kgm	10~12 (車載のホイールナットレンチの 先端で49~59kgの力)
ブレーキペダルの 遊 び • 踏み込んだときの 床板とのすきま	mm	10~15 95以上 (踏む力 20kg)
駐車ブレーキの引きしろ	ノッチ	14~20 (引く力 約30kg)
クラッチペダルの 遊 び • 切れたときの床板 とのすきま	mm	40~45 50以上

項 目	単 位	基 準 値
ヘッドランプ(前照灯)	W	75/55
ターンシグナル ランプ(方向指示灯)		25 (ワロント, リヤ)
クリアランスホーキング ランプ(車幅灯・駐車灯)		5
ストップ/テール・ ホーキングランプ (制動灯/尾灯・駐車灯)		21/5
バックアップランプ (後退灯)		15
ライセンスプレート ランプ(番号灯)		12
パネルランプ		5

車
内
照
明

外
照
明

フ
ン

給油脂一覧表

箇所

量

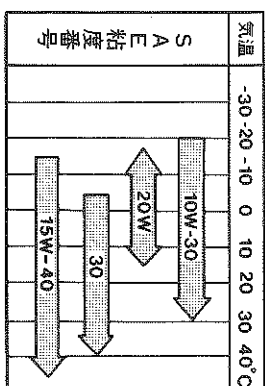
使用銘柄

三菱純正エンジン オイル

エンジン オイルはAPI分類により品質が区分され、SAE粘度番号により気温に応じた粘度が区分されていますので次の表を参考にして使い分けてください。

三菱純正銘柄		
タイプ	API分類	SAE粘度番号
ダイヤクイーン デイゼル ターボ オイル	CD	10W-30
ふそうエンジン オイル スーパ S-3	CD	10W-30
ふそうエンジン オイル S-3	CD	20W, 30
ふそうエンジン オイル CE	CE	15W-40

エンジン
 (オイル フォルタ,
 オイル クーラ内
 約1.2ℓを含む)



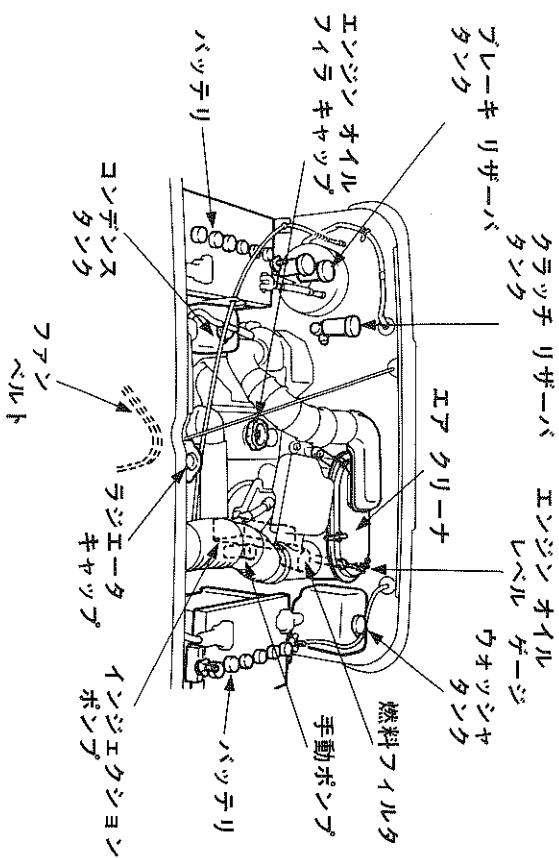
73J036

冬期にはエンジンの始動性をよくするため、次のエンジン オイルを使用し、SAE30は使用しないでください。
 厳寒地[北海道].....10W-30
 その他の地域.....10W-30, 20W, 30, 15W-40

給油脂一覧表

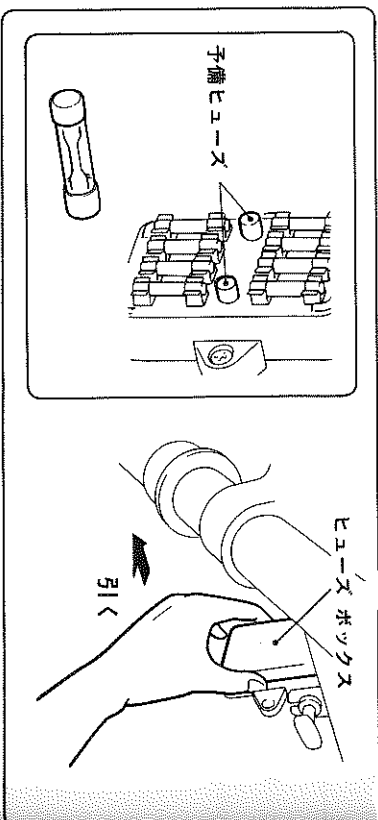
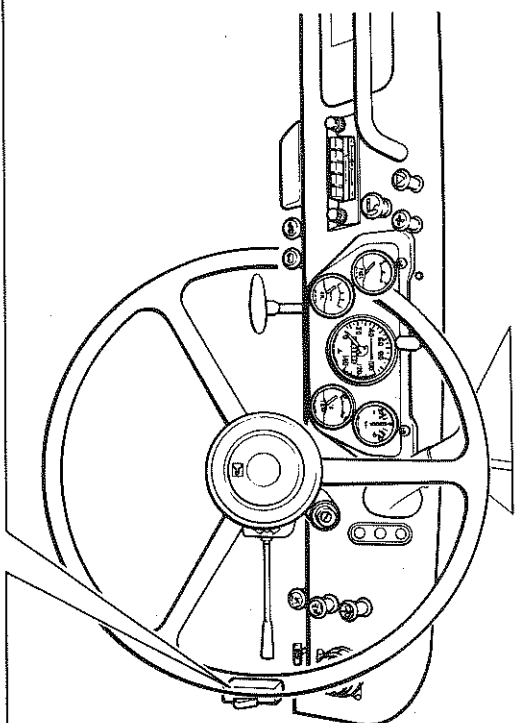
箇所	量	使用銘柄 ()はAPI分類	箇所	量	使用銘柄
トランスミッション	1.7ℓ	三菱純正 タイヤクイーン フルチ ギヤ オイル #75W/85W (GL-4)	ウインドウ ウォッシャ	1.5ℓ	三菱純正 タイヤクイーン ウインドウ ウォッシャ液
トランスファ	1.6ℓ		燃料タンク	45ℓ	軽油
タイワ レンジャー	フロント	1.3ℓ	三菱純正 タイヤクイーン スーパハイポイド ギヤ オイル (GL-5) 10℃以上 #90 10℃以下 #80		
	リヤ	1.7ℓ			
ブレーキ	所 要		三菱純正 タイヤクイーン ブレーキ フルード DOT3		
クラッチ					
冷却水	約9.0ℓ (コンデンスタンク内 0.5ℓを含む)	三菱純正 タイヤクイーン ロングライフクーラント			

エンジンルーム内の名称



73J035

ヒューズ ボックス



73J040

INDEX (索引)

ア

アッパ ビーム表示灯	22
アスタ ドライブ シフト レバー	41
アンテナ	33

ウ

ウインドウ シールド	29
ウォッシュ スイッチ	24

エ

エンジン	62
エンジン スイッチ	37
エンジン フード	27
エンジン ルーム	62

オ

オーバー ヒート	15
オート ロード 走行	55

カ

寒冷時の保守	53
--------	----

キ

キー	25
給油 脂 一覧表	60

ク

グローブ ボックス	31
グロー プラゲ予熱表示灯	22

ケ

軽油	54
けん引	16

コ

コ 具	45
コントロール ノズ	34

サ

サイド ヒータ	35
サンバイザ(日よけ)	31

シ

シート	29
シート ベルト	30
シガレット ライタ	32
ジャッキ	46
ジャッキ ハンドル	46

ス

水温計	21
スピードメータ	21
スベア タイヤ	48
スロットル ノズ	39

セ

整備基準値	59
積載量	10
積算距離計	21
セフテイ ベルト	29
センタ ベンチレータ	35
洗 車	52

タ

ターン シグナル(方向指示)スイッチ	24
ターン シグナル(方向指示)表示灯	22
タイ ト コーナ プレーキング現象	57
タイヤ	47~50
タイヤとホイール サイズ	50
タイヤ チェーン	50
暖機運転	39

チ

駐車ブレーキ レバー	43
------------	----

テ

定期交換部品	8
定期点検	8
テイヤ(ヘッド ランパ上下切り換え)スイッチ	23
電流計	21

ト

ヘーシ

ト ア 25

ト ア カーテン ウインドウ 26

搭載工具 45

渡 河 57

トランスファ コン트롤 レバム 41

トランスミッション シフト レバム 41

ネ

燃 料 27

燃料計 21

ハ

ハベキング スイッチ 23

灰 皿 32

ハザード (非常点滅) スイッチ 23

ヒ

ヒータ及びベンチレーション 34

ヒューズ 62

P.T.O.(作業機) 39

フ

フアン スイッチ 34

フリー ホイール ハブ 43

ブレーキ警告灯 22

フロント ブライヴ シフト レバム 41

ヘ

ヘーシ

ヘッド ランア上下切り換え スイッチ 23

ホ

保安炎筒 32

幌 27

メ

メータ 19

ユ

油圧計 21

ヨ

4 輪駆動表示灯 22

ラ

ライチング スイッチ 23

ラジオ 33

ランブ 59

リ

リヤ ゲート 26

ワ

ワイバ スイッチ 24



MB638761

ST103002

MITSUBISHI
Jeep[®]

・取扱説明書は、車の中に入れて保管してください。

・車をゆずるときは、取扱説明書及び整備手帳を車につけておいてください。

New Motoring Wave

新技術なときめき

MMC 三菱自動車

三菱自動車工業株式会社 / 東京都港区芝五丁目33番8号 〒108 ☎(03) 3456-1111